令和2（2020）年度

専門職学位課程

授業評価報告書

令和3(2021)年7月

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

目 次

掲載科目一覧

共通科目

教育課程の編成・実施に関する領域	(第1領域)	1
教科等の実践的な指導方法に関する領域	(第2領域)	＊
生徒指導,教育相談に関する領域	(第3領域)	2
学級経営,学校経営に関する領域	(第4領域)	3
学校教育と教員の在り方に関する領域	(第5領域)	4
共通科目選択群		5

＊オンライン授業のためアンケート未実施

専門科目

教科領域力	12
発達支援力	35
マネジメント力	44
子ども対応力	50
学習指導改善力	54
教職実践力	57

掲載科目一覧

※回答者3名以下の科目は，未掲載。

No.	科目区分	領域・科目群	科目コード	科　　目　　名	頁
01	共通科目	第1領域	PAAA020E	教科カリキュラムの構成と理論	1
02	〃	第3領域	PAAA060E	教育相談の理論と実践	2
03	〃	第4領域	PAAA080E	学校組織マネジメントの理論と実践	3
04	〃	第5領域	PAAA100E	今日的な教育課題とその対応Ⅱ	4
05	〃	共通科目選択群	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習Ⅰ(体育)	5
06	〃	〃	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(数学)	6
07	〃	〃	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(理科)	7
08	〃	〃	PABA030E	チーム総合演習（教育課題解決のためのプランニング）	8
09	〃	〃	PABA040E	教職協働力実践演習Ⅰ（特別支援）	9
10	〃	〃	PABA050E	教職協働力実践演習Ⅱ（特別支援）	10
11	〃	〃	PABA050E	教職協働力実践演習Ⅱ（教職系・子ども発達除く）	11
12	専門科目	教科領域力	PBAA010E	言語コミュニケーション教育（国語）の内容構成演習	12
13	〃	〃	PBAA030E	言語コミュニケーション教育（国語）の教材開発演習	13
14	〃	〃	PBAA040E	言語文化教育（国語）の教材開発演習	14
15	〃	〃	PBAA060E	言語文化教育（国語）の学習指導と授業デザイン	15
16	〃	〃	PBBA010E	言語コミュニケーション教育（英語）の内容構成演習	16
17	〃	〃	PBBA030E	言語コミュニケーション教育（英語）の教材開発演習	17
18	〃	〃	PBBA040E	言語文化教育（英語）の教材開発演習	18
19	〃	〃	PBBA060E	言語文化教育（英語）の学習指導と授業デザイン	19
20	〃	〃	PBCA030E	社会認識教育（地理歴史）の教材開発演習A	20
21	〃	〃	PBCA040E	社会認識教育（地理歴史）の教材開発演習B	21
22	〃	〃	PBCA070E	社会認識教育（公民）の内容構成演習A	22
23	〃	〃	PBCA090E	社会認識教育（公民）の教材開発演習A	23
24	〃	〃	PBZA020E	ことば・文化・社会を視点とした教科横断型単元の学習指導と授業デザイン	24
25	〃	〃	PBDA010E	数理認識教育 (数学) の内容構成演習A	25
26	〃	〃	PBDA020E	数理認識教育 (数学) の内容構成演習B	26
27	〃	〃	PBDA040E	数理認識教育 (数学) の教材開発演習B	27
28	〃	〃	PBDA050E	数理認識教育 (数学) の学習指導と授業デザインA	28
29	〃	〃	PBDA060E	数理認識教育 (数学) の学習指導と授業デザインB	29
30	〃	〃	PBEA010E	自然科学教育（理科）の内容構成演習A	30
31	〃	〃	PBFA070E	ICT教育（情報）の内容構成演習A	31
32	〃	〃	PBFA080E	ICT教育（情報）の内容構成演習B	32
33	〃	〃	PBZA030E	数学・理科・技術・工業・情報・家庭を往還した教科横断型単元の構成とカリキュラム	33
34	〃	〃	PBZA050E	身体・表現・文化を視点とした教科横断型単元の構成とカリキュラム	34
35	〃	発達支援力	PPAA060E	小学校への接続・連携を見通した幼児教育	35
36	〃	〃	PPAA070E	子ども家族支援の実際と課題	36
37	〃	〃	PPAA080E	家庭教育支援演習	37
38	〃	〃	PPBA010E	特別支援教育におけるキャリア教育･進路指導デザインA	38
39	〃	〃	PPBA030E	特別支援教育における心理行動支援A	39
40	〃	〃	PPBA040E	特別支援教育における心理行動支援B	40
41	〃	〃	PPBA050E	特別支援教育における医療・教育の連携A	41
42	〃	〃	PPBA070E	特別支援教育における心理学・教育学の連携A	42

掲載科目一覧

※回答者3名以下の科目は，未掲載。

No.	科目区分	領域・科目群	科目コード	科　　目　　名	頁
43	〃	〃	PPBA080E	特別支援教育における心理学・教育学の連携B	43
44	専門科目	マネジメント力	PPCA020E	地域の教育課題と教育行政の実務	44
45	〃	〃	PPCA050E	学校防災教育の開発	45
46	〃	〃	PPCA060E	学校におけるカリキュラムマネジメントの推進	46
47	〃	〃	PPCA070E	家庭・地域・学校の連携構築	47
48	〃	〃	PPCA080E	学校ビジョンの構築と教職員の組織化	48
49	〃	〃	PPCA090E	教職員の人材育成と校内研修	49
50	〃	子ども対応力	PPDA010E	子ども理解と支援	50
51	〃	〃	PPDA020E	いじめ・不登校等事例検討	51
52	〃	〃	PPDA040E	集団づくりとグループアプローチ	52
53	〃	〃	PPDA050E	道徳教育の理論と実践	53
54	〃	学習指導改善力	PPEA020E	学校教育におけるＩＣＴ活用と情報デザイン	54
55	〃	〃	PPEA030E	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	55
56	〃	〃	PPEA060E	ワークショップ型研修の技法	56
57	〃	教職実践力	PPFA060E	生徒指導実践演習B	57
58	〃	〃	PPFA080E	学級経営実践演習B	58

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

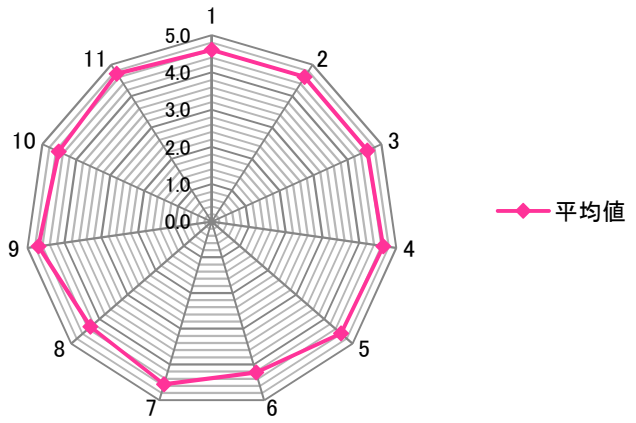
評価実施日	令和　2　年　8　月　18　日

授業科目名	教科カリキュラムの構成と理論		
授業区分	共通 科目	回答者数	54 名
担当教員名	幾田伸司，伊藤直之，秋田美代，湯口雅史		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	34	19	1				4.6
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	35	17	2				4.6
3	授業の内容は，分かりやすかった。	33	20	1				4.6
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	37	15	2				4.6
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	36	15	2	1			4.6
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	26	15	12	1			4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	35	15	3	1			4.6
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	25	25	2		2		4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	38	16					4.7
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	31	20	3				4.5
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	41	11	2				4.7
12								
13								



＜分　析＞

個々の項目で課題はありますが、全体として高い評価を得られたと思います。課題についてはやむを得ない面もあるのですが、アクティブラーニングが十分にできなかったこと、オムニバスのために各教科の内容が十分に深めきれなかったことなどに触れたコメントがありました。本講義で扱う各教科の位置づけなどに触れ、全体を統括するオリエンテーションを実施すればよかったと思います。いくつかの課題は残りましたが、各回の授業内容については、大体理解し、カリキュラムについて考えるきっかけになったと評価してもらえたようです。授業の進め方など、次年度以降にも生かせればと考えます。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

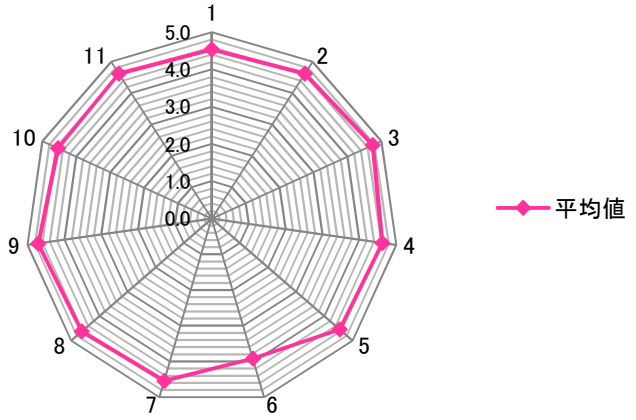
評価実施日	令和　2　年　8　月　17　日

授業科目名	教育相談の理論と実践		
授業区分	共通 科目	回答者数	24 名
担当教員名	小坂浩嗣，末内佳代		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	14	9	1				4.5
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	16	7	1				4.6
3	授業の内容は，分かりやすかった。	19	4	1				4.8
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	17	5	2				4.6
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	14	9	1				4.5
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9	6	7	2			3.9
7	授業の進む速さは適切であった。	17	4	2	1			4.5
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	17	5	2				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	5	1				4.7
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	15	7	2				4.5
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	15	9					4.6
12								
13								



＜分　析＞

回答率は，21％であった。回答を求めた11項目全体の平均は4.5であった。カテゴリー別では，＜シラバスの内容について＞　1項目は4.5，＜授業の内容について＞4項目は4.6，＜教員の授業の進め方について＞3項目は4.3，＜授業に対する満足度・意義について＞3項目は4.6であった。すべての分析項目において4.3以上の結果を得たことから，総合的に高い評価を得たと考えられる。

全体ならびに項目別の全10項目に4.5以上の高い評価を得た。これは，従来に実践してきた①授業計画を綿密に立て授業者間で内容の摺り合わせをして授業に臨んだこと，②前半の理論や原理を主にした内容と後半の絵本の紹介や心理・相談室の見学などによる実践的内容との組み合わせによる展開に加え，紹介事例などを更新して最新の情報を提示したことが評価に繋がったと考える。一方，アクティブラーニングについては，シラバスで明示した内容と実際とにズレがあったことが確認できた。精査して次年度には改善をしたい。その点も含めた課題としては，教育相談の原理・原則を中心とした講義に実践事例や実践的手法を加味することが挙げられる。この点をを踏まえ，より良い授業を追求していく姿勢と受講生のニーズを聴く謙虚な姿勢をもって，来年度も授業改善に取り組んでいきたいと考える

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

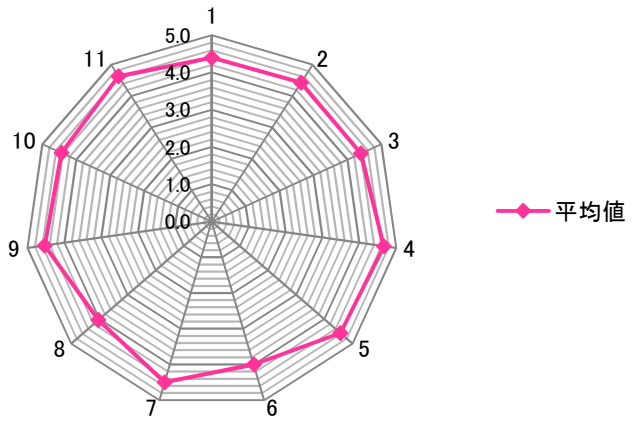
評価実施日	令和　2　年　8　月　19　日

授業科目名	学校組織マネジメントの理論と実践		
授業区分	共通 科目	回答者数	30 名
担当教員名	久我直人，芝山明義，大林正史		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	14	14	2				4.4
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	15	13	2				4.4
3	授業の内容は，分かりやすかった。	15	13	1	1			4.4
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	20	10					4.7
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	18	11	1				4.6
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7	16	7				4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	16	13	1				4.5
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	12	11	4	2	1		4.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	12	1				4.5
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	15	14		1			4.4
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	19	11					4.6
12								
13								



＜分　析＞

全ての項目で一定の評価を得ることができた（全ての項目で4．0以上であった）。
その理由として，授業内容において，今日的な教育課題に対応した理論と実践事例を系統的に配置したことが挙げられる。特に，学校組織マネジメントにかかる実践事例を多く取り上げると共に，事例に内包される教育理論を可視化し，組織化しにくい学校の組織化のメカニズムを理論的に組み上げる思考を促したことが，受講者の理解と納得につながったと考える。さらに，学校ビジョンの形成等，具体的なマネジメントの作業課題を通して，学校を俯瞰することが受講者の学びにつながったと考える。
また，授業方法において，事例に対する受講者の質問に答える等，応答的なやりとりの中で授業を展開したことや，具体的な作業課題について，グループワークを通して，院生同士の交流の場を設定したことも，受講者の能動性を引き出し，評価につながったと分析する。
3人の授業者が，それぞれの視点で学校組織特性や学校の組織化の在り方，学校文化の醸成の仕方等にかかる知見を提供することにより，共通科目としての幅広い学びの提供を試みた。そのことによって，多面的に学べた，という感想が得られたが，つながりが持ちにくいという意見もあった。
　なお，要望として，事前課題にかかる内容と量についてであった。
今後，授業展開にかかる時間配分等について再検討し，次年度の授業設計に生かしたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

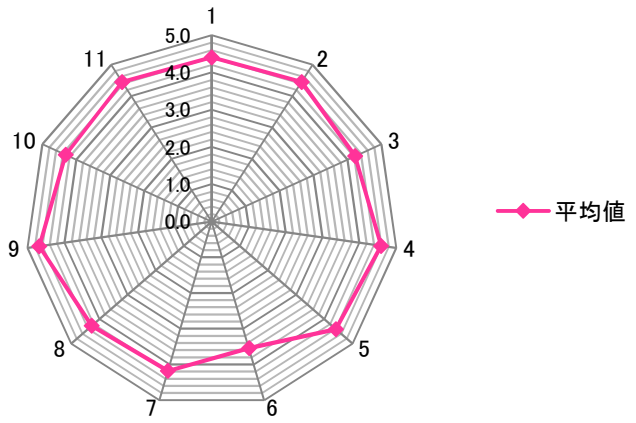
評価実施日	令和　2　年　8　月　20　日

授業科目名	今日的な教育課題とその対応Ⅱ		
授業区分	共通 科目	回答者数	22 名
担当教員名	伊藤弘道，大谷博俊，井上とも子，高原光恵，小倉正義，粟飯原良造		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	11	10		1			4.4
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	12	9		1			4.5
3	授業の内容は，分かりやすかった。	8	12	1	1			4.2
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	14	7	1				4.6
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	11	9	2				4.4
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	9	5	3	1		3.5
7	授業の進む速さは適切であった。	9	9	3	1			4.2
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	11	6	5				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	3	2				4.7
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	9	11	2				4.3
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	13	7	1	1			4.5
12								
13								



＜分　析＞

本授業では、今日的な特別支援教育の課題、特に発達障害に関して取り扱っている。本授業での院生の到達目標であるが、教育学・心理学・医学各分野の視座を得て「(1)発達障害のある児童生徒への実践経験を省察し、自身の実践の意味や課題を明らかにできること」、「(2)教育実践の充実・改善に必要な専門的知識と技能を活用できること」である。院生からの授業評価結果であるが、各項目に渡り、平均値として4点台の項目が多く、概ね問題ない授業内容であったと考えられた。コロナ関連の感染予防と対話的な授業の両立・バランスは今後も課題であるが、今回の結果を参考に今後の授業改善に日々努めていきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

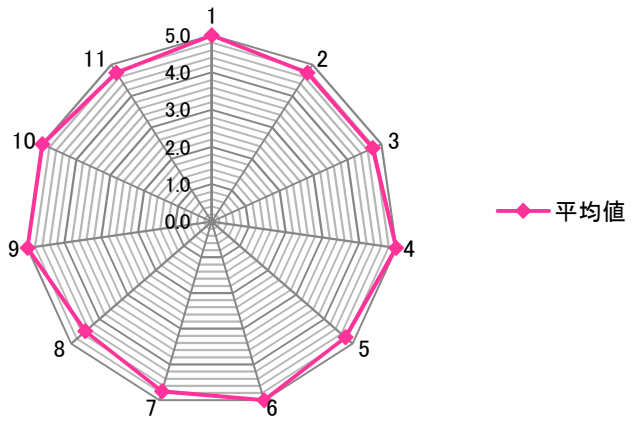
評価実施日	令和　2　年　8　月　18　日

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅰ（体育）		
授業区分	共通 科目	回答者数	4 名
担当教員名	湯口雅史，木原資裕，田中弘之，藤田雅文，松井敦典，綿引勝美，南隆尚		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	3	1					4.8
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1					4.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	3		1				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8
12								
13								



＜分　析＞

第1回目に学校現場の状況を説明し，多様な子どもの存在とそれぞれに対する幅広い教育観が必要であることを共通理解し，授業を進めた。本授業は，オムニバス形式で行っており，それぞれの先生方の専門性や経験を生かした内容で授業を行ったため，上記のような評価を得たと考えている。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

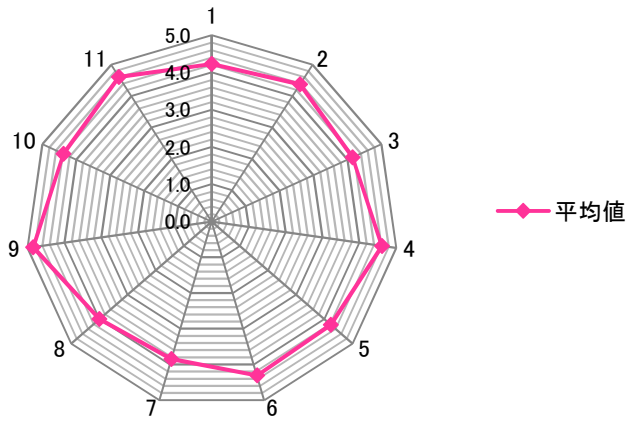
評価実施日	令和　3　年　2　月　5　日

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ（数学）		
授業区分	共通 科目	回答者数	13 名
担当教員名	佐伯昭彦，秋田美代，成川公昭，宮口智成，早田透，山中仁		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	6	6			1		4.2
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	4			1		4.4
3	授業の内容は，分かりやすかった。	6	5	1		1		4.2
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	11	1			1		4.6
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	8	3		1	1		4.2
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6	6		1			4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	5	5	1		2		3.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	7	3	1		2		4.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	2					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	8	4			1		4.4
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	11	1			1		4.6
12								
13								



＜分　析＞

本講義では、数学書の輪読を通じて、より高度な立場から小・中・高の内容を精査するという、教科専門的な視点から見ても専門性の高い内容が取り扱われた。それにも関わらず、平均して良い評価が得られたのは、将来教職に就くにあたって自身の専門性の不足・強化の必要性に学生自身が気づき得たことが主な要因であると考えている。実際、自由記述欄を見ても、純粋数学を学べたことや専門性の高い内容を学べたことが評価されており、また、データをみても項目4が非常に高く、これらの結果は上記の所感を裏付けているものと考えられる。

項目7,8は他の項目よりも比較的値が低いが、これは、内容が純粋数学に近い高度なものであったこと、従って、自分のチーム以外の内容をフォローする時間が取れなかったことが要因と思われる(自由記述欄にもそのような意見がある)。内容の高度さゆえ仕方がない部分もあると思うが、より簡潔にまとまった読み易い文献を提供するなどして改善したい。

教職大学院の内容は教授法がメインであるべきことは論を俟たないが、学生自身は教科専門的な内容に関する専門性も身につけたいという意向をもっていることが点数・自由記述の双方から読み取れる。これは今後の授業の在り方について、大切な示唆になると思われる。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

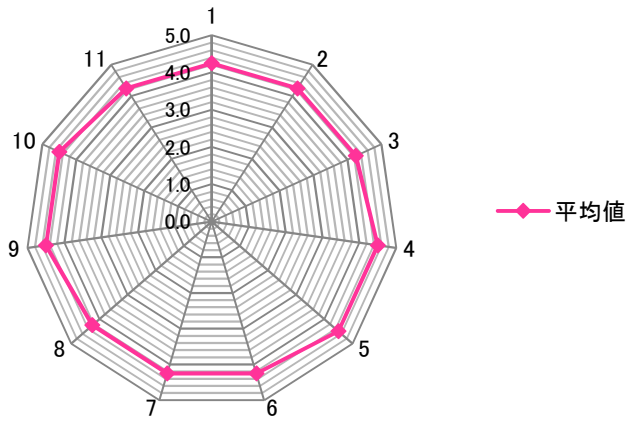
評価実施日	令和　3　年　2　月　16　日

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ（理科）		
授業区分	共通 科目	回答者数	4 名
担当教員名	佐藤勝幸，武田清，本田亮，胸組虎胤，栗田高明，寺島幸生，早藤幸隆		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	1	3					4.3
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	1	3					4.3
3	授業の内容は，分かりやすかった。	1	3					4.3
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	2	2					4.5
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	2	2					4.5
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	1	3					4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	1	3					4.3
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	1	3					4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	2	2					4.5
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	1	3					4.3
12								
13								



＜分　析＞

評価人数が少なめなので，信頼性にやや欠くが，概ね計画通り，実践できたと考えられる。今後はより分かりやすい解説に心がけ，さらに多くのことを学びたくなるような配慮を授業実践の中に取り入れていきたい。これから求められる理科教育実践にとって重要な観点を学習者が理解できるようさらなる努力をしていきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

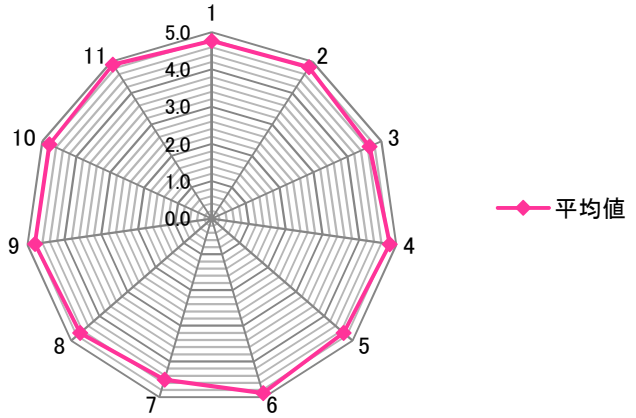
評価実施日	令和　2　年　11　月　20　日

授業科目名	チーム総合演習（教育課題解決のためのプランニング）		
授業区分	共通 科目	回答者数	35 名
担当教員名	前田洋一 他，教職実践高度化系教員16名		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	27	8					4.8
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	29	6					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	23	12					4.7
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	29	6					4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	25	9	1				4.7
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	31	4					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	22	9	4				4.5
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	25	9	1				4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	29	5	1				4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	29	5	1				4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	32	3					4.9
12								
13								



＜分　析＞

どの調査項目も4．5ポイント以上であり、授業の成果は高かったと考える。また、項目6のアクティブ・ラーニング、項目11の今後の学習意欲に関しては、4．9ポイントと高く、教職大学院の学びとして必要な、協働的な学びへの意欲がうかがえる。項目7の授業の進む早さにおいて「3」を選んだ受講生がみられるが、この授業は授業時間外の個別の学習によって授業の質が担保されているので授業外の時間での学習時間の確保が難しかったのだろうと推測できる。

自由記述をみてみると、「チームである必要性を実感できる授業だった。学校でもこのような、共同体の役割を担う、他の人のためにという気持ちのもてる学習を展開したい。」や「教育について、学校について、自分自身がどんな理想を持っていて、どんな教師になりたいのかをじっくりと考えることができました。チームのメンバーとたくさん議論し、お互いの考えを享受し、自分の意見を安心して伝えられる関係性を築くことができたことができました。このメンバーと学校を構想することができて本当に良かったです。」、「たくさんの学びを得ることができました。当初は自分の知識不足、勉強不足を痛感して自分がチームに貢献できるかかなり不安でした。しかし次第に、わからないことは素直に質問しよう、チームのために今の自分にできることを見つけて実行していこうと思えるようになりました。素直にわからないと質問できるようになったことは、自分の中で大きな進歩でした。その時から、学びへの意欲や充実感も増したように思います。チームの皆さまや先生方のご指導のおかげです。心から感謝します。」などアクティブ・ラーニングやチーム学習の成果を確認できる物が多くみられる。

本年度は、コロナ禍での授業であったが例年通りの高評価を得ることができた授業であった。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

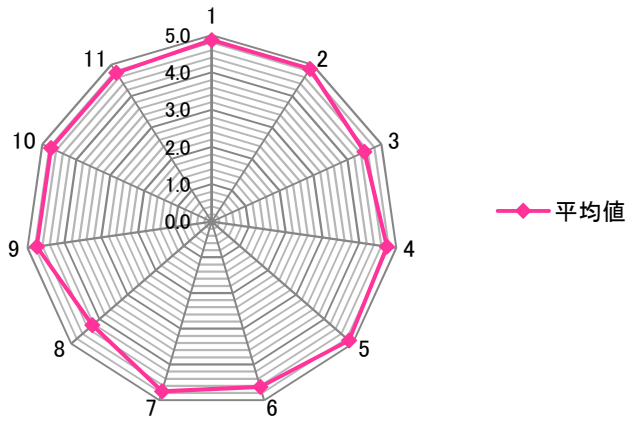
評価実施日	令和　2　年　8　月　4　日

授業科目名	教職協働力実践演習Ⅰ（特別支援）		
授業区分	共通 科目	回答者数	8 名
担当教員名	井上とも子，伊藤弘道，大谷博俊，高原光恵，尾関美和		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	7	1					4.9
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	1					4.9
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4	4					4.5
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	6	2					4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	7	1					4.9
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	3					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	6	2					4.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	3	4	1				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	6	2					4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	2					4.8
12								
13								



＜分　析＞

本授業では、これからの学校教育で重要となる教職協働力を育成することを目的とし、院生のキャリアに応じて必要な教職協働力の理論等を学ぶとともに、学卒院生が中心となって授業設計、授業実践、授業の振り返りを行う方針とした。アンケート結果としては、評価項目全体に渡って概ね高評価が得られた。今後も院生自らが、能動的に調べる、考える、意見を出す、再度調べる、まとめる等の過程を通して、自ら学んでいく主体的学びを身につけていけるように（コロナ関連の感染予防と対話的な授業の両立・バランスは今後も課題であるが）、今後とも授業の内容、方法について改善を行っていきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

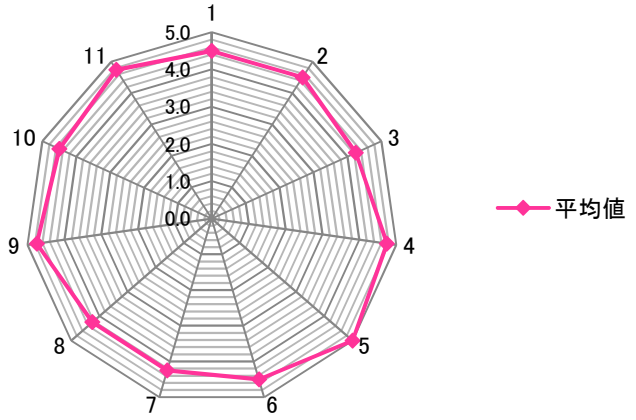
評価実施日	令和　3　年　2　月　9　日

授業科目名	教職協働力実践演習Ⅱ（特別支援）		
授業区分	共通 科目	回答者数	4 名
担当教員名	大谷博俊，伊藤弘道，井上とも子，高原光恵，尾関美和		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	2	2					4.5
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	2					4.5
3	授業の内容は，分かりやすかった。	1	3					4.3
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	3	1					4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	1				4.3
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	1	3					4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	2	2					4.5
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8
12								
13								



＜分　析＞

アンケート回答によると、本授業に対する受講生の満足度は比較的高いといえる。授業内容とアクティブ・ラーニングについても概ね肯定的な評価が得られており、オムニバスによる授業構成と、模擬授業やディスカッションなどの授業方法は適切であったと考える。

また、本授業が、受講者の実践力育成に非常に寄与していることが分かる。この点に関して、「フィールドワークの現場で学んだこと、疑問に思ったことを、講義や協議を通して振り返ったり、確かめたりすることができた」「学卒院生との関わりを通して現場での体験を少しでも伝えられたように思う」という自由記述結果に基づけば、フィールドワークやディスカッションといった、アクティブ・ラーニングが効果的であったのではないかと考えられる。今後も、継続して導入することが望ましいのではないだろうか。また、ハイブリッド型の授業としても、現職と学卒受講者の、一定の相乗効果が認められる。

一方、自由記述結果によれば、アクティブ・ラーニングでも、模擬授業については、事前準備のための時間がもう少し必要であったようである。また、「医療機関や療育施設、放課後等デイ、スクールカウンセラーの方と意見交換したりしてみたい」というように、関連する専門家との接触を希望する受講者もいた。本授業の趣旨、目的を考慮しつつ、検討できればと考える。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

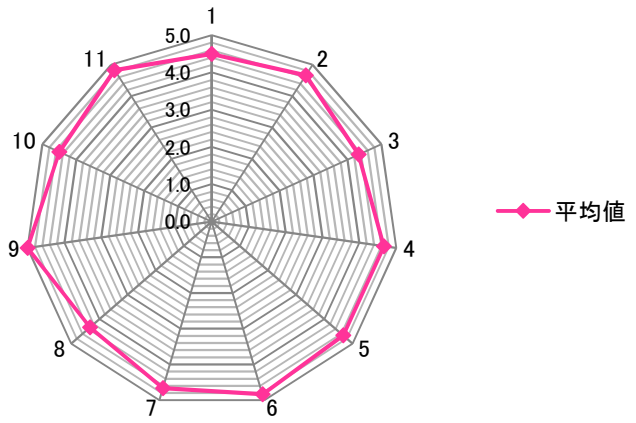
評価実施日	令和　3　年　2　月　15　日

授業科目名	教職協働力実践演習Ⅱ（教職系・子ども発達除く）		
授業区分	共通 科目	回答者数	6　名
担当教員名	江川克弘 他，教職実践高度化系教員23名		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	4	1	1				4.5
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	2					4.7
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4		2				4.3
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	4	2					4.7
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	4	2					4.7
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	4	2					4.7
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	4	1		1			4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4	1	1				4.5
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	1					4.8
12								
13								



＜分　析＞

全項目で評価の平均値が4.3以上であり，院生は本授業を総じて有用であると感じていると言える。特に，評価項目「9」は平均値が5.0と高い。本授業のカリキュラム構成により，院生は主体的かつ積極的に学習に取り組めるようになっていることが分かる。本授業において，教員養成特別コースの院生は自身が基礎インターンシップで行った授業について振り返りを行い，改善して再度同じ授業を実践（模擬授業実践）する。現職院生はその過程全てに関わって教員養成特別コースの院生が気付きを得られるように支援する。教員養成特別コースの院生については，院生の最大の関心事である「授業実践をどのように行えばよいのか」に関して院生の実態に応じたきめ細かな指導が行われ，現職院生については，若手教員育成のための具体的方策について考え実践するという教育現場における実際的な課題について試行錯誤を行いながら学びを深める。いずれも，院生が自分事として学ぶため，このような結果になったと考えられる。今後もこのような指導を継続して行う必要があると考える。しかし，授業評価アンケートへの回答が少ないため，授業終了時には授業評価アンケートへの回答を促す必要がある。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

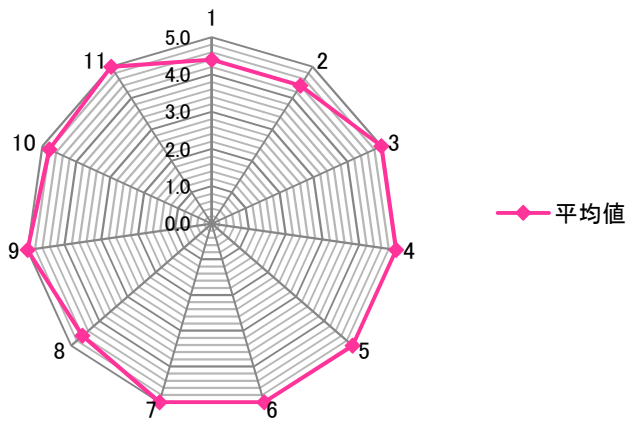
評価実施日	令和　2　年　11　月　26　日

授業科目名	言語コミュニケーション教育（国語）の内容構成演習		
授業区分	専門 科目	回答者数	5　名
担当教員名	原卓志，余郷裕次		

○集計結果及び分析

（5：そう思う，　4：ややそう思う，　3：どちらともいえない，　2：あまりそう思わない，　1：そう思わない，　無：未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	3	1	1				4.4
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1	1				4.4
3	授業の内容は，分かりやすかった。	5						5.0
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	5						5.0
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	5						5.0
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	3	2					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4	1					4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5						5.0
12								
13								



＜分　析＞

受講生5名のうち4名が、現職院生であり、学卒院生も国語分野の指導学生であったため、アンケート結果は、好意的で高い評価となった。実際の受講態度も極めて熱心で積極的なものであった。受講者が5名と少人数であったため、新型コロナウイルス感染防止策をとりながら、教室における言語コミュニケーションのあり方について、実践的に演習を展開することができたと考えている。

自由記述には、「絵本の読み聞かせ、読み合いができて、呼吸を意識すること、腹式呼吸の大事さを学んだこと。」のように、言語コミュニケーションの身体的な基本を学んだ意義を指摘するものや、「絵本のしかけについて深く学べた。絵本の読み方、声の出し方について知ることができた。」のように、言語コミュニケーションにおける発声面を学んだ意義を指摘するものがあった。絵本を媒材にしながら、言語コミュニケーションの身体的・心理的基礎を演習的に学ぶことができたと考えている。始まったばかりの授業であり、シラバスの内容には、試行錯誤が必要であるが、今後も、受講者の期待に応えられるような演習を実践していきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

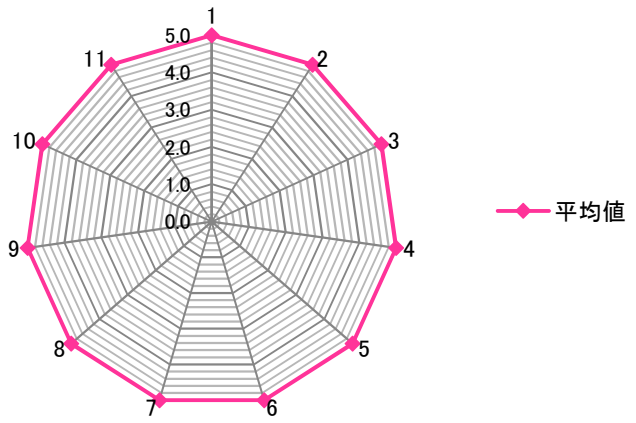
評価実施日	令和　3　年　2　月　18　日

授業科目名	言語コミュニケーション教育（国語）の教材開発演習		
授業区分	専門 科目	回答者数	4　名
担当教員名	幾田伸司，原卓志		

○集計結果及び分析

（5：そう思う，　4：ややそう思う，　3：どちらともいえない，　2：あまりそう思わない，　1：そう思わない，　無：未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



＜分　析＞

受講者数が少ないうえに、演習を多く取り入れましたので、たいへん高い評価をいただきました。受講者自身が主体的に授業に取り組めたことで、授業自体の評価も上がったのだと思います。およその進め方は肯定的に捉えてもらえていますので、課題などをさらに工夫して、次年度以降につなげたいと考えています。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

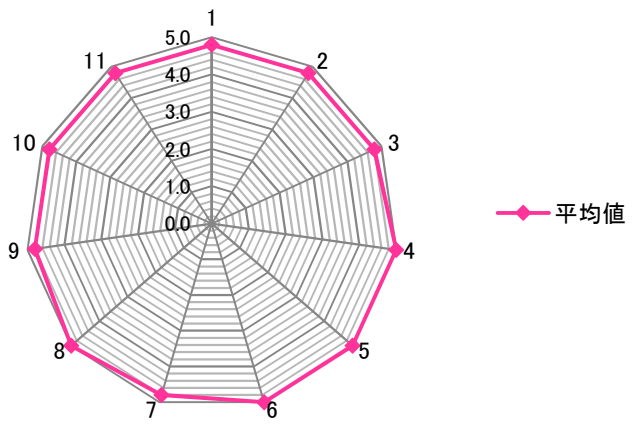
評価実施日	令和　3　年　2　月　15　日

授業科目名	言語文化教育（国語）の教材開発演習		
授業区分	専門 科目	回答者数	5　名
担当教員名	黒田俊太郎，余郷裕次		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	4	1					4.8
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	1					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4	1					4.8
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	5						5.0
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1					4.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4	1					4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8
12								
13								



＜分　析＞

教員間の連携もうまくとれており、全ての項目において高い評価であった。今後もさらなる授業改善を心がけながら授業を行っていきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

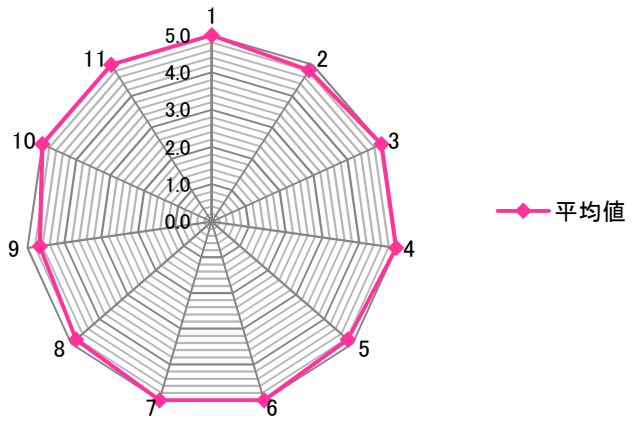
評価実施日	令和　3　年　2　月　9　日

授業科目名	言語文化教育（国語）の学習指導と授業デザイン		
授業区分	専門 科目	回答者数	6　名
担当教員名	幾田伸司，平川恵美子		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	6						5.0
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	1					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	6						5.0
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	6						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	5	1					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	6						5.0
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	6						5.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6						5.0
12								
13								



＜分　析＞

受講者数が少ないうえに、演習を多く取り入れましたので、たいへん高い評価をいただきました。受講者の皆が積極的に課題に関わり、主体的に取り組めたことが、満足度が高かった要因だと思います。国語分野以外の方や、現職・学卒の方がいて、様々な視点から考えられたこともよかったと思います。授業の内容全般は肯定的に捉えてもらえていますので、課題などをさらに工夫して、次年度以降につなげたいと考えています。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

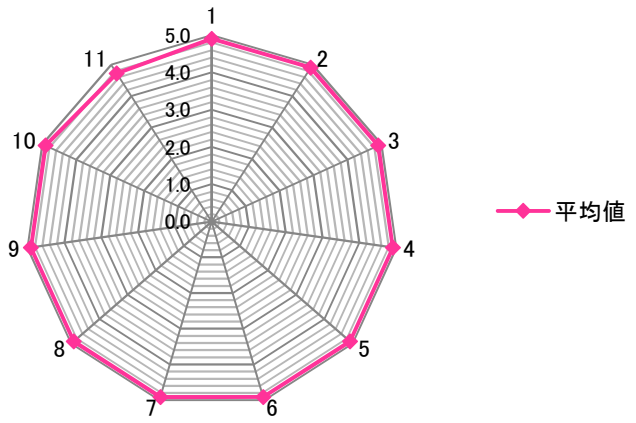
評価実施日	令和　2　年　11　月　26　日

授業科目名	言語コミュニケーション教育（英語）の内容構成演習		
授業区分	専門 科目	回答者数	11 名
担当教員名	眞野美穂，佐藤美智子		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	10	1					4.9
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	10	1					4.9
3	授業の内容は，分かりやすかった。	10	1					4.9
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	10	1					4.9
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	10	1					4.9
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	10	1					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	10	1					4.9
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	10	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	1					4.9
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	10	1					4.9
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	3					4.7
12								
13								



＜分　析＞

受講生は、学卒学生～現職学生（小学校～高校）と、多岐にわたっていたため、授業内容についてシラバスを元にしつつも、担当教員で相談しながら、調整をおこなった。とても困難ではあったものの、高い評価が得られたことは、その検討の成果と考える。また、問題などについて話し合う時間を積極的に持ったことで、受講生の多様性がプラスに働いたと、自由記述から考えることができた。授業回数が限られている中で、来年度以降も受講生の特徴も考慮しつつ、内容を調整することが大事だと考えた。英語教育は現在過渡期で21年度は中学校の教科書の改訂が行われる。その内容も視野に入れつつ、改善を行いたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

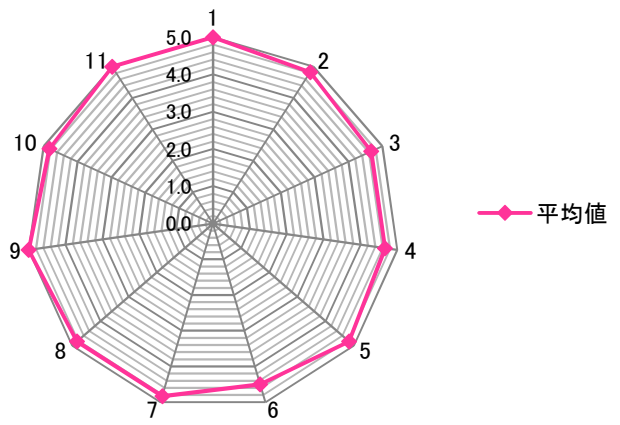
評価実施日	令和　3　年　2　月　12　日

授業科目名	言語コミュニケーション教育（英語）の教材開発演習		
授業区分	専門 科目	回答者数	6　名
担当教員名	佐藤美智子，眞野美穂		

○集計結果及び分析

（5：そう思う，　4：ややそう思う，　3：どちらともいえない，　2：あまりそう思わない，　1：そう思わない，　無：未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	6						5.0
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	1					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4	2					4.7
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	4	2					4.7
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	5	1					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	1	1				4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	5	1					4.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	5	1					4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6						5.0
12								
13								



＜分　析＞

シラバスをもとに担当者間で授業内容について調整しながら授業を進めた。しかし，受講生には学卒学生と現職学生がおり，しかも校種が小学校から高校と，多岐にわたっていたため，授業内容の構想が非常に難しかった。個々の経験知も，それに伴うニーズも異なるからであり，自由記述欄からもそれが伺える。ある程度の評価は得られたが，課題は多い。特に，課題の示し方については，受講生に応じた配慮ができるよう改善したい。また，諸事情でオンラインとなった授業もあり，教材開発演習という内容上，アクティブ・ラーニングの実施が難しかった。令和2年度の成果と課題を踏まえ，今後，さらに改善を図っていきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

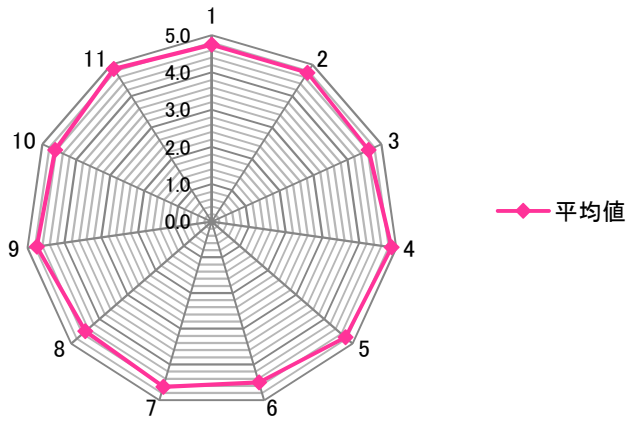
評価実施日	令和　3　年　2　月　9　日

授業科目名	言語文化教育（英語）の教材開発演習		
授業区分	専門 科目	回答者数	8　名
担当教員名	山森直人，佐藤美智子		

○集計結果及び分析

（5：そう思う，　4：ややそう思う，　3：どちらともいえない，　2：あまりそう思わない，　1：そう思わない，　無：未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	6	2					4.8
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	6	2					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	5	3					4.6
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	7	1					4.9
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	6	2					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	2	1				4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	6	1	1				4.6
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5	2	1				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	5	3					4.6
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	7	1					4.9
12								
13								



＜分　析＞

いずれの質問項目においても評定の平均値が4.5以上で高評であった。相対的に評定平均値が低い項目6（授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。）と項目8（授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。）は今後改善が必要なポイントとして扱いたい。項目6については，講義一辺倒にならないように努めたが，今振り返れば，もう少し話し合いの時間をもつこともできたと考える。また，項目8については，アンケートの自由記述において指摘されていたように，最終の演習課題のための準備時間が少なかったようだ。課題内容を早めに伝えるなど，見通しをもって課題に取り組めるようにしたい。

修士課程とは異なる専門職学位課程としての授業内容のあり方を追究するとともに，ICTを可能性をさらに授業に取り入れながら，今後の授業方法を検討したい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

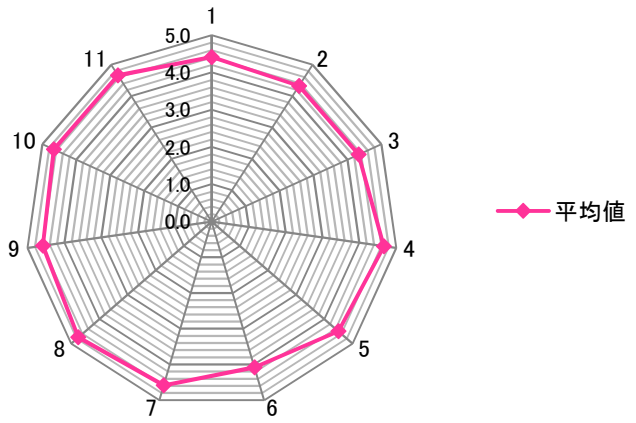
評価実施日	令和　3　年　2　月　12　日

授業科目名	言語文化教育（英語）の学習指導と授業デザイン		
授業区分	専門 科目	回答者数	12 名
担当教員名	山森直人，ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ ﾏｰｼｪｿ，佐藤美智子		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	7	3	2				4.4
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	6	1				4.3
3	授業の内容は，分かりやすかった。	6	4	2				4.3
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	9	2	1				4.7
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	6	6					4.5
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	5	3				4.1
7	授業の進む速さは適切であった。	7	5					4.6
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	9	3					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5					4.6
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	9	2	1				4.7
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	4					4.7
12								
13								



＜分　析＞

いずれの質問項目においても評定の平均値が4以上で高評であった。相対的に評定平均値が低い項目2（授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。），項目3（授業の内容は，分かりやすかった。），項目6（授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。）は今後改善が必要なポイントとして扱いたい。特に，項目2については，授業内容について，授業担当者間での共通理解をもっと図るべきであったと反省する。これまでの教員や学生からの授業の内容や方法に関するフィードバックをふまえて，授業の再構築を図りたい。

修士課程とは異なる専門職学位課程としての授業内容のあり方を追究するとともに，ICTを可能性をさらに授業に取り入れながら，今後の授業方法を検討したい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

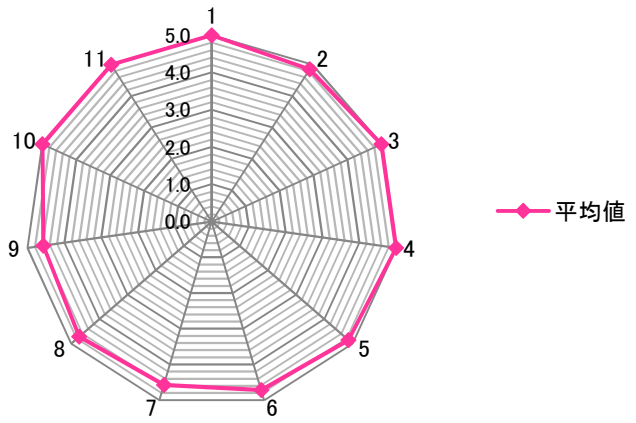
評価実施日	令和　3　年　2　月　15　日

授業科目名	社会認識教育（地理歴史）の教材開発演習A		
授業区分	専門 科目	回答者数	7　名
担当教員名	立岡裕士，畠山輝雄，伊藤直之		

○集計結果及び分析

（5：そう思う，　4：ややそう思う，　3：どちらともいえない，　2：あまりそう思わない，　1：そう思わない，　無：未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	7						5.0
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	6	1					4.9
3	授業の内容は，分かりやすかった。	7						5.0
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	7						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	6	1					4.9
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6		1				4.7
7	授業の進む速さは適切であった。	5	1	1				4.6
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5	2					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3					4.6
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	7						5.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	7						5.0
12								
13								



＜分　析＞

おおむね良好な評価が得られたことは評価できる。ただし、6や7の項目で3の評価が1名ではあるが見られた。6の項目については、毎年、受講者数や受講者の属性（高校での地理の履修の有無）、受講中の理解度を踏まえて、内容の変更をしているため、このような評価があったものと思われる。前述の趣旨を説明して受講生に周知を深めたい。7の項目については受講生のニーズを踏まえて改善を図りたい。
それ以外の項目についても、本年度の評価を踏まえて、次年度はさらなる改善を図りたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

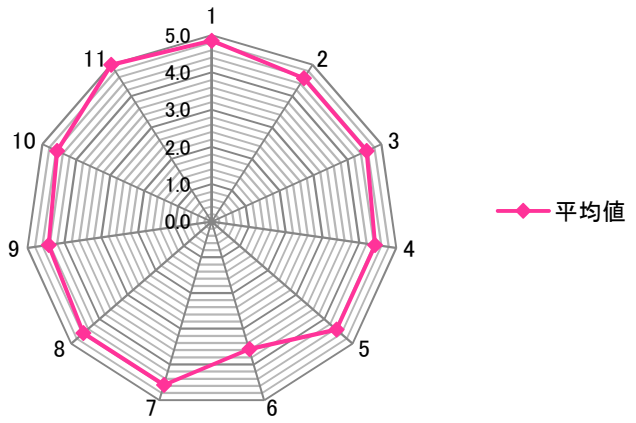
評価実施日	令和　3　年　2　月　18　日

授業科目名	社会認識教育（地理歴史）の教材開発演習B		
授業区分	専門 科目	回答者数	7　名
担当教員名	町田哲，梅津正美，原田昌博		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	6	1					4.9
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	3					4.6
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4	3					4.6
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	5	1		1			4.4
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	5	1		1			4.4
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2	2		1		3.6
7	授業の進む速さは適切であった。	5	1	1				4.6
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5	1	1				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1		1			4.4
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	5	1	1				4.6
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	7						5.0
12								
13								



＜分　析＞

本授業は、歴史（日本史・世界史）に関する教科内容を基礎に、教材開発をおこなう能力の育成をめざしている。受講者7名全員からの回答が得られ、概ね高い評価を得られ、とくに7名全員が「7この授業をきっかけに、もっと学びを広げたり深めたりしたい」という意欲を導き出すことができた。唯一平均値が下がっていたのが「6アクティブ・ラーニング」の実施であるが、一人だけ「1」の評価がなされている。しかし、実際の授業では意見発表や意見交換、質疑応答などを取り入れており、実際に「5」をつけた受講生もいる。軽々には判断できないが、こうした意見があったことをふまえて、来年度の授業改善に活かしたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

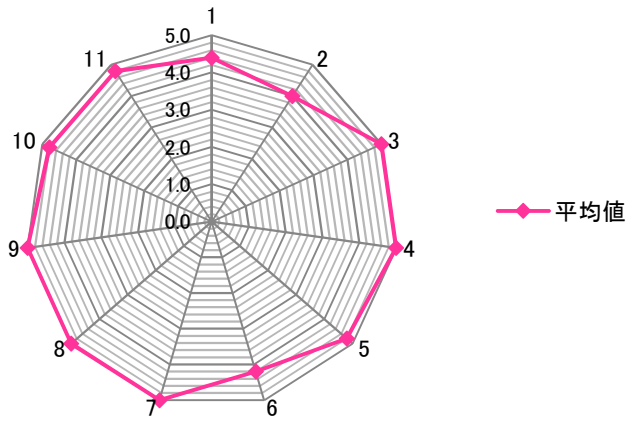
評価実施日	令和　3　年　2　月　9　日

授業科目名	社会認識教育（公民）の内容構成演習A		
授業区分	専門 科目	回答者数	5　名
担当教員名	麻生多聞，青葉暢子，井上奈穂		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	3	1	1				4.4
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	1	2				4.0
3	授業の内容は，分かりやすかった。	5						5.0
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	4	1					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3		2				4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	5						5.0
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4	1					4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8
12								
13								



＜分　析＞

今年度から、授業内容を一新した。学校現場で使用されている教科書をコピーし、これに関連した学術的な情報をレジュメにまとめて学んでいく、という形をとった。授業内容の作成にあたっては、長い時間と手間をかけたため、授業評価での反応が気になっていたが、概ね好評であり、よかったと思う。「シラバスに示されてた先生が3人いたが，授業担当は1人の先生であった。偶然にも話を聞きたい先生が担当だったのでよかったが，もしそうでなければと思うと履修登録時にわかるように指示が必要だと思う。」という自由記述については、対応が必要と考える。教職大学院では、複数教員による学際的協働がキーワードとなっているが、実際には1名の教員が主担当となって授業を実施している。授業の進行に伴い、多分野の専門の先生による情報提供などが必要となった場合には、今後、積極的に協力をいただくよう留意したい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

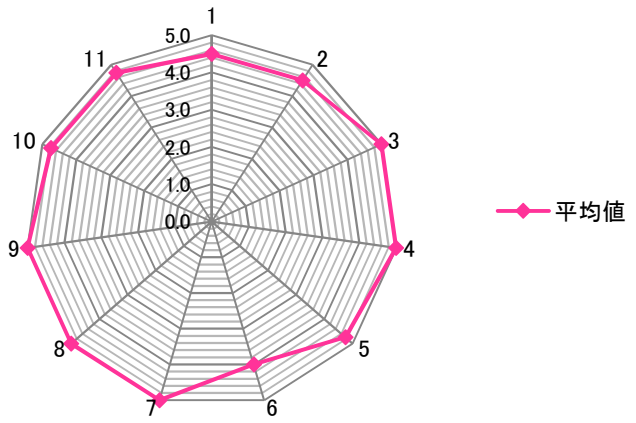
評価実施日	令和　3　年　2　月　9　日

授業科目名	社会認識教育（公民）の教材開発演習A		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	麻生多聞，青葉暢子，井上奈穂		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	2	2					4.5
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	2					4.5
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2		2				4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8
12								
13								



＜分　析＞

今年度から、授業内容を一新した。学校現場で使用されている教科書をコピーし、これに関連した学術的な情報をレジュメにまとめて学んでいく、という形をとった。授業内容の作成にあたっては、長い時間と手間をかけたため、授業評価での反応が気になっていたが、概ね好評であり、よかったと思う。アクティブラーニングについて、課題が認められたため、次年度はより積極的にアクティブラーニングを心がけた内容にしたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

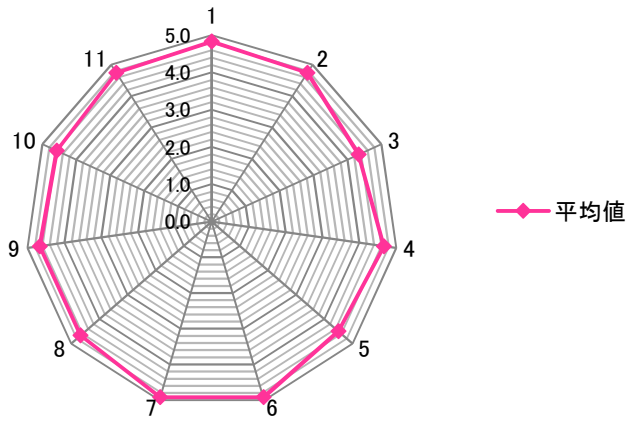
評価実施日	令和　2　年　11　月　30　日

授業科目名	ことば・文化・社会を視点とした教科横断型単元の学習指導と授業デザイン		
授業区分	専門 科目	回答者数	12 名
担当教員名	伊藤直之，藪下克彦，原卓志，余郷裕次		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	10	2					4.8
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	10	1	1				4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	7	2	3				4.3
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	9	2	1				4.7
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	8	2	2				4.5
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	11	1					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	11	1					4.9
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	9	2	1				4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2	1				4.7
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	8	3	1				4.6
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10	1	1				4.8
12								
13								



＜分　析＞

概して好評価であったように思われる。授業内容の分かりやすさという点でさらなる改善を図りたい。自由記述のなかに，フィールドワークに伴う4週間のブランクを問題視する意見があった。当授業単体での問題解決ができるものではないが，大学院教務係や委員会等でカリキュラム改善の検討を願いたい。深刻な問題は授業評価アンケートへの回答率の低さである。受講者28名中12名の回答にとどまっている。フォームズ回答形式の限界かと思われる。専門職学位課程だけでも紙媒体によるマークシート回答を復活させてはどうか。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

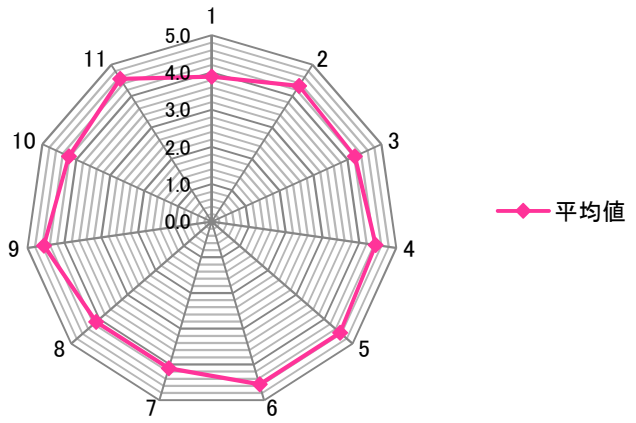
評価実施日	令和　3　年　2　月　18　日

授業科目名	数理認識教育（数学）の内容構成演習A		
授業区分	専門 科目	回答者数	9 名
担当教員名	山中仁，秋田美代，佐伯昭彦，成川公昭，宮口智成，早田透		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	3	4	1		1		3.9
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	2	2				4.3
3	授業の内容は，分かりやすかった。	5	3			1		4.2
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	6	2		1			4.4
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	6	2	1				4.6
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	4					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	4	2	3				4.1
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	4	3	1	1			4.1
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4					4.6
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	5	3			1		4.2
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	2	1				4.6
12								
13								



＜分　析＞

本講義は、小・中・高の生徒が躓きがちな内容を想定・設定して、その躓きがちな内容の数学的原因の特定、および、そこを改善するには生徒がどういった数学的能力を身につければ良いのかを考える、というものであった。内容が抽象的で「躓き」といってもどのレベルを想定すればよいのかが難しかったようである。

総じて評価点は高かったが、項目1,7,8は(項目7,8は4以上とはいえ)相対的には低い。項目1の「シラバス」については、やはりそもそものテーマが抽象性が高く、幅も広いため、事前に十全に把握することは難しかったと思われる。項目7については標準的なコマ数(15回)の半分近くである8回の中である程度まとめることに困難があったと想定される。実際、机間指導で学生の構想を聞いていても、なかなか焦点が定まらず、苦慮しているように見えた。これも扱うテーマの抽象性が壁になったと考えられる。項目8については、授業の性格上、学生自らが焦点を定め、論を立てていくことを重視したため、自主性にゆだねる部分が多くなったことが原因と考えられる。いずれも抽象性の高さが原因であるため、事例を1つ提供するなどして、学生にとってより具体的に感じられる工夫をしていく必要がある。

自由記述に関しては、上述の内容のほかに、1グループ(4人)が多いという意見、及び中間発表の意義をつかみきれなかったと思われる意見があった。前者については、受講生が多かったことと、授業のコマ数が8回分しかなかったという面があるが、後者については学生が中間段階のものに他者から外部の視点で見てもらうことの重要性がつかみ切れていなかったように見え、この点に関しては今後より明示的に意義を強調していくことで改善が見込めると考えられる。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

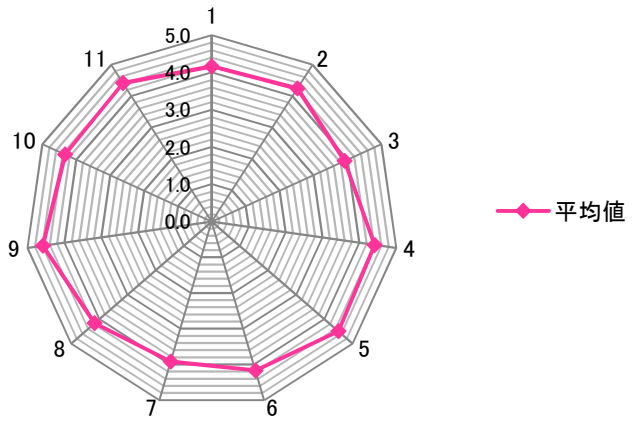
評価実施日	令和　3　年　2　月　15　日

授業科目名	数理認識教育（数学）の内容構成演習B		
授業区分	専門 科目	回答者数	12 名
担当教員名	成川公昭，秋田美代，佐伯昭彦，宮口智成，早田透，山中仁		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	4	6	2				4.2
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	7	1				4.3
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4	4	3	1			3.9
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	6	5	1				4.4
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	7	4	1				4.5
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	6	2				4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	4	4	3	1			3.9
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5	5	1	1			4.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5					4.6
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	5	6	1				4.3
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	5	1				4.4
12								
13								



＜分　析＞

この授業では、確率統計学と解析学に関連した内容から、生徒児童あるいは学生が苦手（つまづき易い）なテーマについて、苦手になる原因を探り、それを克服するための方策について考えさせた。その上で、授業の題材・構成を考え最後にグループ毎に模擬授業を行った。ほとんどの項目で 4 以上という高い評価が得られたのは、2名もしくは3名の教員が常に授業参加して、丁寧に指導した結果であると考えられる。今後の課題としては、他の授業との関わりをより明確にするということがある。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

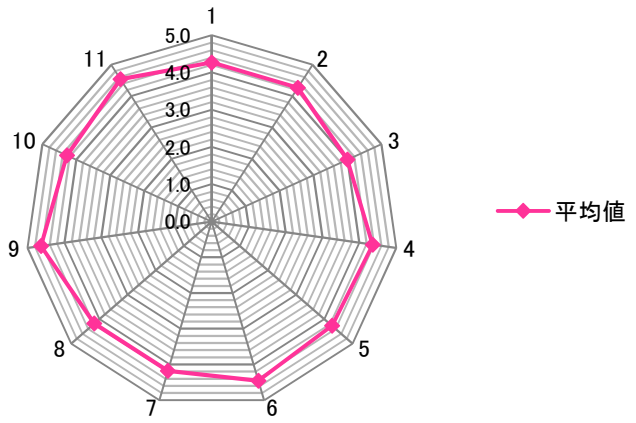
評価実施日	令和　3　年　2　月　15　日

授業科目名	数理認識教育（数学）の教材開発演習B		
授業区分	専門 科目	回答者数	11 名
担当教員名	宮口智成，秋田美代，佐伯昭彦，成川公昭，早田透，山中仁		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	4	6	1				4.3
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	6	1				4.3
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4	3	4				4.0
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	5	5	1				4.4
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	4	6	1				4.3
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6	4	1				4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	4	5	2				4.2
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5	3	3				4.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4					4.6
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4	6	1				4.3
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	5					4.5
12								
13								



＜分　析＞

この授業では、最初に最近の統計教育に関する背景を説明し、その上で確率統計と解析関係の教材開発を行った。教材開発を行うために必要は数学知識が不足している受講生もいたが、授業中の教員との議論、授業の最後の発表、発表に対するコメントに応えることを課した最終レポート、と講義が進むに従ってより良い内容に仕上がっていった。この過程で受講生は数学の専門性と実践力の重要性をある程度認識できたのではないかと考えられる。これらの結果として、どの項目も 4 以上と高い評価が得られた。今後の課題は、他の授業との関わりをより明確にするということである。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

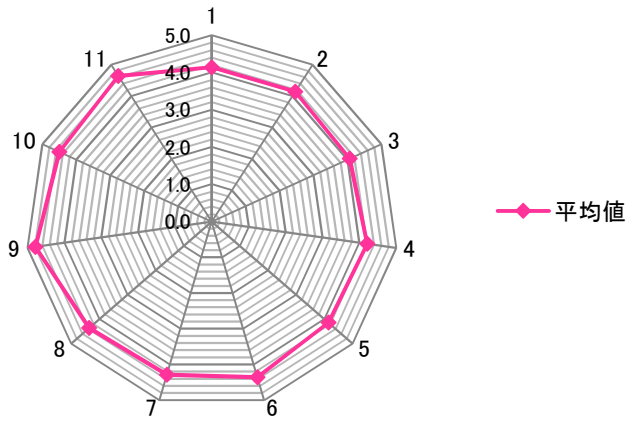
評価実施日	令和　2　年　11　月　30　日

授業科目名	数理認識教育（数学）の学習指導と授業デザインA		
授業区分	専門 科目	回答者数	14 名
担当教員名	佐伯昭彦，秋田美代，成川公昭，宮口智成，早田透，山中仁		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	5	6	3				4.1
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	8			1		4.1
3	授業の内容は，分かりやすかった。	5	7	1		1		4.1
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	6	6	1	1			4.2
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	5	8			1		4.1
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	8	5			1		4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	6	6	2				4.3
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	6	7	1				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	3					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	7	7					4.5
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10	3	1				4.6
12								
13								



＜分　析＞

本授業では，数学の認知特性を踏まえた学習指導理論を基に，算数科・数学科の目標が実現できるようなICT（GeoGebra）を活用した代数と幾何に関する授業のデザインと検討を行った．具体的には，ICTを活用して生徒が主体的に代数と幾何の規則や性質等を発見し，それを数学的に論証する内容の授業をデザインし，模擬授業を行うとともにその評価と改善を行った．授業評価アンケート調査では，全ての項目において平均値が4以上であった．この結果，本授業の目的は概ね達成できたと考える．本授業における授業デザイン−模擬授業−評価・改善の一連の活動は，数学専門の教員，数学教育の教員，学卒学生，現職学生が議論を通して協働で行った．このことが，好意的な評価を得た要因になったと考える．これに関しては，学生の自由記述「現職の先生がいらっしゃったので、実際の現場の話を交えて進められたので、深い学びになった。」や「ストレートの院生方と授業について話し合いをしたことで、自分なりの収穫があった。」といった内容から読みとる事ができる．一方，評価1を選択した1名の学生は，特にシラバスに関わる項目に対して否定的ではあったが，項目9（主体的・積極的），項目10（満足度），項目11（学びの継続性）に対して評価5を選択しているので，この学生にとっても良い授業であったと考えられる．

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

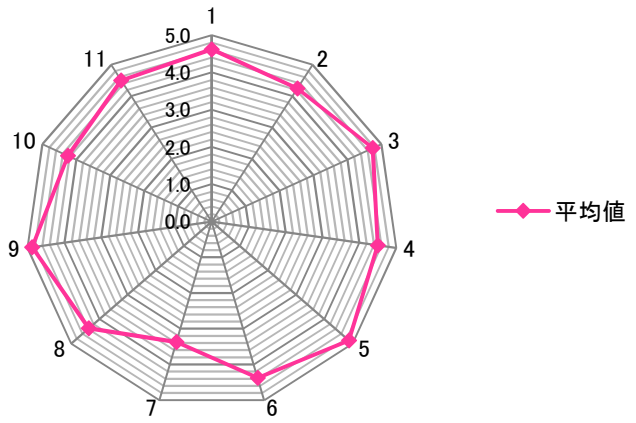
評価実施日	令和　3　年　2　月　9　日

授業科目名	数理認識教育（数学）の学習指導と授業デザインB		
授業区分	専門 科目	回答者数	8　名
担当教員名	秋田美代，佐伯昭彦，成川公昭，宮口智成，早田透，山中仁		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	5	3					4.6
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	4	1				4.3
3	授業の内容は，分かりやすかった。	6	2					4.8
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	4	4					4.5
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	7	1					4.9
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	5					4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2	1	3			3.4
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	4	3	1				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1					4.9
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4	2	2				4.3
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6		2				4.5
12								
13								



＜分　析＞

本授業の目的は、数学固有の知識感を基に、算数科・数学科の目標が実現できる授業のデザインの理論と実際を考察することであった。子供の数学に対する自律的学習能力を育成するという観点から、数学を理解するための認知活動である「新たな性質・関係を既習の性質・関係として捉えること」と「新たな性質・関係を既習の性質・関係を使って説明すること」に焦点を当てた授業デザインの方法を理解し、具体的な題材についての授業デザインとその検討をすることを通して、履修者の「学習課題の分析力」、「学習目標の把握力」、「教材研究力」、「授業設計力」等を高めること、および算数科・数学科の目標が実現できる授業デザイン力と学習指導力を高めることをねらいとしていた。

評価平均値が高い評価項目は、「授業の内容は，実践力の育成につながるものであった」、「授業に主体的・積極的に取り組んだ」、「授業の内容は，分かりやすかった」等であり、履修者が主体的に取り組み、数学科の授業デザイン・学習指導についての理解を深めたことが分かった。記述式の回答では、「生徒視点の思考を深めることができ，その視点に立ったより良い授業改善や授業デザインについて，議論を深める中で考え作り上げていくことができとても学びの深い学習ができました」との意見があった。これらのことから、授業の目的は概ね達成できたと判断できた。

評価平均値の低い評価項目は、「授業の進む速さは適切であった」であった。記述式の回答では、「個人で考えてくる課題を全体で共有し、議論するスタイルが、自分の学生生活から無駄な時間を奪われることが無かった」、「何を全体で共有するべきなのか、曖昧な部分があった」等の意見があった。本授業では、子供の数学の理解体験をデザインするための理論に基づいて、各自がデザインした授業を発表し、全体で検討するという流れであった。履修者が、各自の授業デザインについて十分に検討できた反面で、数学ににおける学習者の認知特性に沿った授業デザイン授業デザインの要素を明確に捉えることができていない受講者が出たことが考えられる。次年度は、数学ににおける学習者の認知特性に沿った授業デザインの構成要素を共有する場面を設定する等の工夫をして、履修者の理解を一層深められるようにする。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

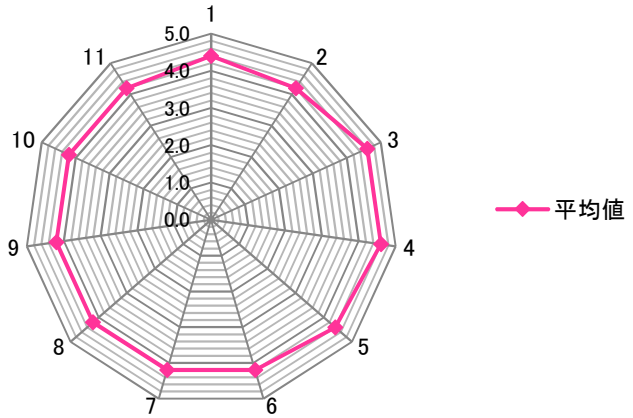
評価実施日	令和　2　年　11　月　26　日

授業科目名	自然科学教育（理科）の内容構成演習A		
授業区分	専門 科目	回答者数	5　名
担当教員名	粟田高明，本田亮，早藤幸隆		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	2	3					4.4
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	1	4					4.2
3	授業の内容は，分かりやすかった。	3	2					4.6
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	3	2					4.6
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	2	3					4.4
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2	1				4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2	1				4.2
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	2	2	1				4.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1				4.2
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	1	4					4.2
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	2	2	1				4.2
12								
13								



＜分　析＞

今年度，専門職学位課程への移行後初めての授業となった。前任の修士課程においては「教科内容構成（理科）」という授業科目があり，その内容を基礎により理科の授業に生かせる内容および受講生が自ら考える演習形式を意識して授業を構成した。概ね良好な授業評価となった。評価が3の項目がいくつかあったため，その項目についての改善を行っていきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

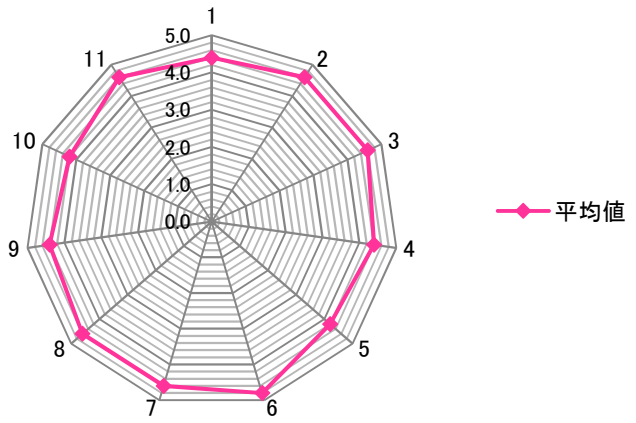
評価実施日	令和　2　年　11　月　26　日

授業科目名	ICT教育（情報）の内容構成演習A		
授業区分	専門 科目	回答者数	5　名
担当教員名	曽根直人，菊地章		

○集計結果及び分析

（5：そう思う，　4：ややそう思う，　3：どちらともいえない，　2：あまりそう思わない，　1：そう思わない，　無：未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	2	3					4.4
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	2					4.6
3	授業の内容は，分かりやすかった。	3	2					4.6
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	3	1	1				4.4
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	3	1		1			4.2
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2					4.6
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	3	2					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1				4.4
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	3	1		1			4.2
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	2					4.6
12								
13								



＜分　析＞

高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材（本編）を利用して授業を実施した。資料を各自が分担して説明し、演習問題も解くことにより内容の理解を深めながら進行したことが評価されたようである。自由記述の回答では「演習問題を受講者同士で解くことで、理解が深まったと感じた。また、他の受講者からの意見を聞くことでどのように修正すればいいのか考えることができた。」とあり、ディスカッションも取り入れながら授業を実施したことが評価された。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

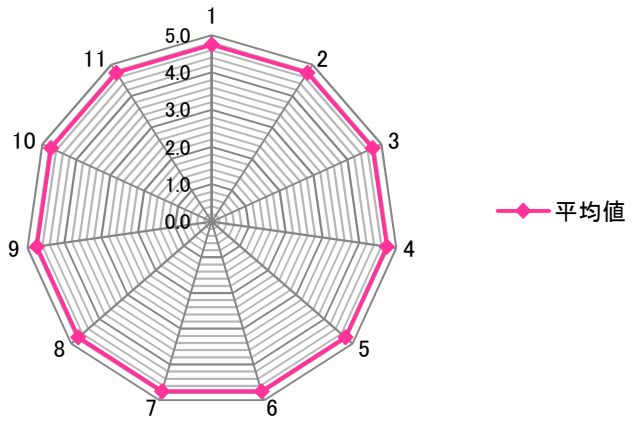
評価実施日	令和　3　年　2　月　18　日

授業科目名	ICT教育（情報）の内容構成演習B		
授業区分	専門 科目	回答者数	4　名
担当教員名	曽根直人，菊地章		

○集計結果及び分析

（5：そう思う，　4：ややそう思う，　3：どちらともいえない，　2：あまりそう思わない，　1：そう思わない，　無：未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	3	1					4.8
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	3	1					4.8
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	3	1					4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1					4.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	3	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8
12								
13								



＜分　析＞

情報処理学会の学会誌に連載されている記事「情報の授業をしよう」を利用し、各自が興味のある実践を選びまとめて発表したり、プログラミング学習でよく利用されている環境について実際に試してみることを行った。記事で取り上げられている実践は興味深いものが多くあり、受講者が将来授業を行う上で参考になるとおもう。またそれぞれが興味のある実践について報告したため、自分が興味を持ったもの以外でも様々な実践があることを知ることができたと思う。自由記述でも「情報に関する研究を本授業の実習などを通して広く知る事ができました。」という意見があり、幅広い事例を紹介できたことは良かったと思う。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

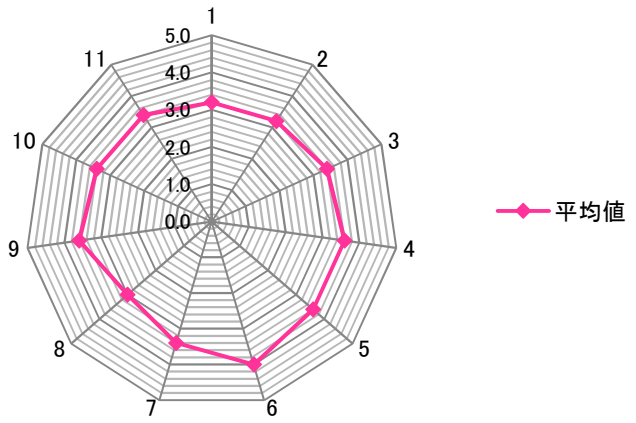
評価実施日	令和　3　年　2　月　12　日

授業科目名	数学・理科・技術・工業・情報・家庭を往還した教科横断型単元の構成とカリキュラム		
授業区分	専門 科目	回答者数	5　名
担当教員名	福井典代，秋田美代，佐伯昭彦，成川公昭，宮口智成，早田透，山中仁，粟田高明，宮下晃一，金貞均，西川和孝		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	1	1	1	2			3.2
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。		2	2	1			3.2
3	授業の内容は，分かりやすかった。		2	3				3.4
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。		4		1			3.6
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	1	2	1	1			3.6
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	1	2				4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1	2	1			3.4
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	1		2	2			3.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1		2			3.6
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。		2	3				3.4
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。		3	1	1			3.4
12								
13								



＜分　析＞

本授業は4つの専門分野による教科横断型授業で、各々の教科の専門的な内容を基に、汎用的な資質・能力の育成を目標とする。そのため各専門分野別に教科内容の理解、単元・カリキュラムの構想を行い、各教科の特性を掴み、横断型の学習指導ができる基盤づくりに努めた。ただ理数系と生活系の違いもあり、受講生の意欲と理解に幅があるのも否めない。それがアンケートの結果に表れたと考える。受講生が各教科の授業に意欲的・主体的に取り組めるように横断型授業の主旨を十分理解させ、各専門の授業をより分かりやすくする必要がある。またアンケートの回答方式がネットを通した自律回答で受講生のアンケート回答率が低く、授業中に全員回答してもらうなど、工夫も必要であろう。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

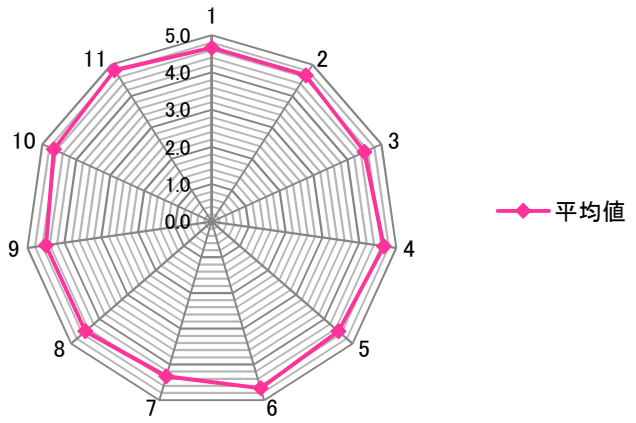
評価実施日	令和　2　年　11　月　26　日

授業科目名	身体・表現・文化を視点とした教科横断型単元の構成とカリキュラム		
授業区分	専門 科目	回答者数	6　名
担当教員名	山田芳明，頃安利秀，山田啓明，内藤隆，栗原慶，木原資裕，綿引勝美		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	4	2					4.7
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	2					4.7
3	授業の内容は，分かりやすかった。	3	3					4.5
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	5		1				4.7
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	3	3					4.5
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	2					4.7
7	授業の進む速さは適切であった。	2	4					4.3
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	3	3					4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3					4.5
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4	2					4.7
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	1					4.8
12								
13								



＜分　析＞

本授業は，教科横断型の単元の構成とカリキュラムを考える基礎となる各教科の特性を身体・表現・文化という視点から検討する科目であり，多くの時間を担当する教科専門の教員が分担して指導している。

アンケートの結果は，全ての質問項目で肯定的な回答であったことから，本授業が学生にとって有意義なものであったと考える。

その他，自由記述の項目「改善点・望む事柄，アイデア」において，個々の教員からの指導の時間を長くとってもらいたい旨の意見が出されている。これは，先に挙げた通り，複数の教員が順次講義を行う時間が多いことに起因しており改善が難しいと考えるが，内容の充実を図る等の工夫により学生の満足度をより高められるようにしてゆきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

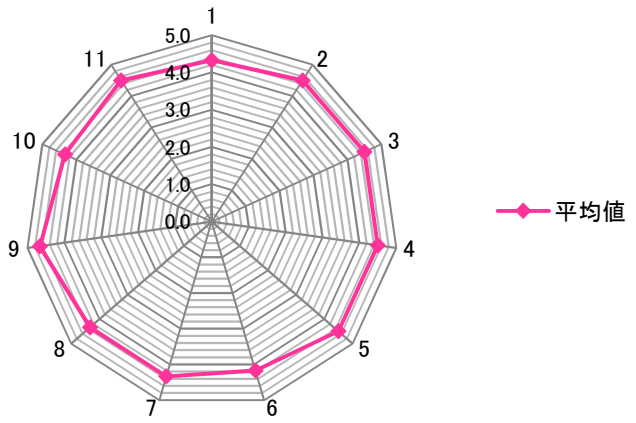
評価実施日	令和　3　年　2　月　5　日

授業科目名	小学校への接続・連携を見通した幼児教育		
授業区分	専門 科目	回答者数	6 名
担当教員名	塩路晶子，湯地宏樹		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	3	2	1				4.3
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	3					4.5
3	授業の内容は，分かりやすかった。	3	3					4.5
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	3	3					4.5
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	3	3					4.5
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	3	1				4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2	1				4.3
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	3	2	1				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5		1				4.7
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	3	2	1				4.3
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1	1				4.5
12								
13								



＜分　析＞

本授業は、幼小の接続・連携について、歴史的観点と共に、海外の教育事例の観点を概観しつつ、幼稚園教育要領の「幼稚園教育において育みたい資質・能力」をふまえて、幼児期のどのような姿が小学校以降の子どもの姿につながっていくのか、また、小学校教育を見通したときに、その基盤となる幼児教育の在り方とはどのようなものか、ということについて学ぶことを目的としている。

すべての評価項目が4.2以上の値であり、この授業の目的はおおむね到達できたと考えている。受講生の自由記述からは、感染症対策を行った柔軟なスタイルの授業でよかったとのコメントや興味はあったが知る機会がなかった幼小連携についての知識を深めることが有意義であったとのコメントがあった。感染症対策のため学生同士のディスカッションが不十分なのは残念な点である。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

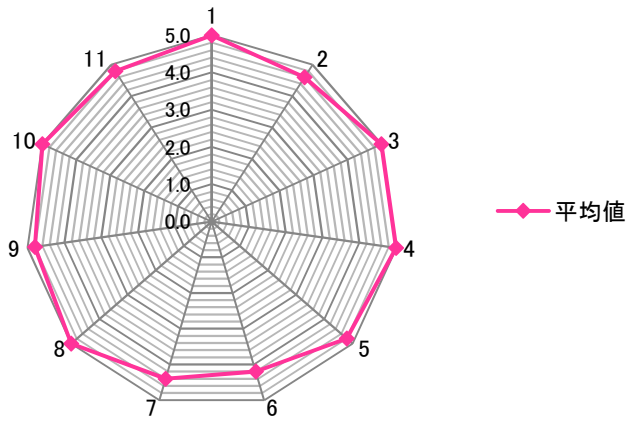
評価実施日	令和　3　年　2　月　12　日

授業科目名	子ども家族支援の実際と課題		
授業区分	専門 科目	回答者数	5　名
担当教員名	木村直子		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	5						5.0
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	2					4.6
3	授業の内容は，分かりやすかった。	5						5.0
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	4	1					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2	1				4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	2	3					4.4
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	5						5.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8
12								
13								



＜分　析＞

今年度も様々なコースの方が履修してくださった。感染症拡大の影響もあり、対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型の授業を実施することとなった。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。コメントを書いて下さった院生からは、「授業の内容は、興味のあるものばかりで、これまでの自分の考え方とはまだ違った視点の意見を他の学生のみなさんからいただきました。」「今後、子どもたちと接するときだけでなく、保護者の方と接するときに出る声掛けの引き出しの種類が増えたように思います。」「発達障害や虐待、子どもの貧困など、これから必ず出会うであろう子どもたちの困り感として想定されることを事前に知ることができた点。予備知識があるかないかで、わずかな兆候に気づくかどうかが変わると感じた。」など授業内容を深く理解された肯定的なコメントが多く、次年度の授業にも活かしていきたい。また中には、オンラインの課題に対するフィードバックにより学びが深まったと評価している院生もあった。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

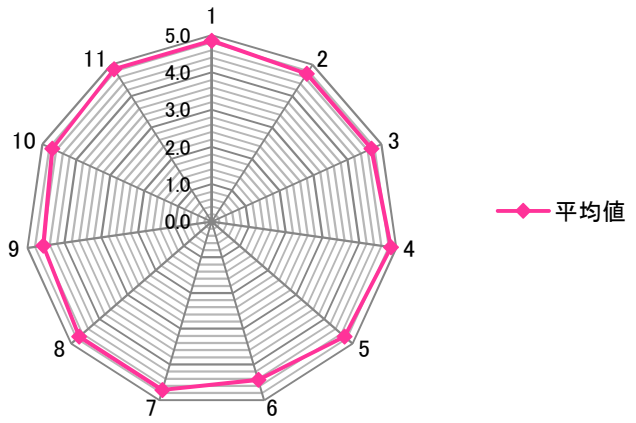
評価実施日	令和　2　年　11　月　26　日

授業科目名	家庭教育支援演習		
授業区分	専門 科目	回答者数	7　名
担当教員名	木村直子		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	6	1					4.9
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	2					4.7
3	授業の内容は，分かりやすかった。	5	2					4.7
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	6	1					4.9
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	5	2					4.7
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	4					4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	5	2					4.7
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5	2					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1				4.6
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	5	2					4.7
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	1					4.9
12								
13								



＜分　析＞

今年度も様々なコースの方が履修してくださった。感染症拡大の影響もあり、対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型の授業を実施することとなった。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。院生からのコメントにおいては、体験型授業として徳島県教育委員会と連携し、ワークショップを実施したことや、県主催のオンライン研修会や県外の大学主催の研修会にオンラインで参加するなど、バリエーションのある授業を展開した。オンライン授業については一方向だけでない双方向のディスカッションをいかに確保するかなど、さらなる授業改善もおこなっていきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

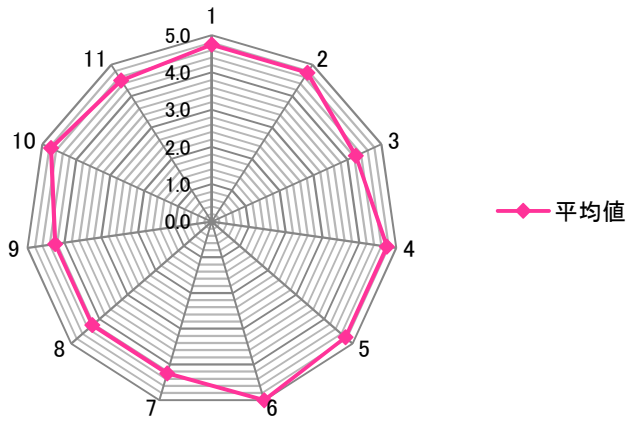
評価実施日	令和　2　年　11　月　24　日

授業科目名	特別支援教育におけるキャリア教育・進路指導デザインA		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	大谷博俊		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	3	1					4.8
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	1	3					4.3
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	3	1					4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	1	3					4.3
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	1	3					4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3					4.3
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	2	2					4.5
12								
13								



＜分　析＞

アンケート回答者の評価によれば、本授業に対する受講者の満足度は高かった。授業内容に対する評価も高く、概ね良好であったと判断できる。本授業では、ワークキャリアに主眼を置き、その支援実践力向上のために、関連機関でのフィールドワーク、発表、ディスカッションなど、複数のアクティブ・ラーニングを組み込んでいたが、受講者は、それらを十分に認識できたようである。今後もこれらの授業方法を継続していきたいと考える。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

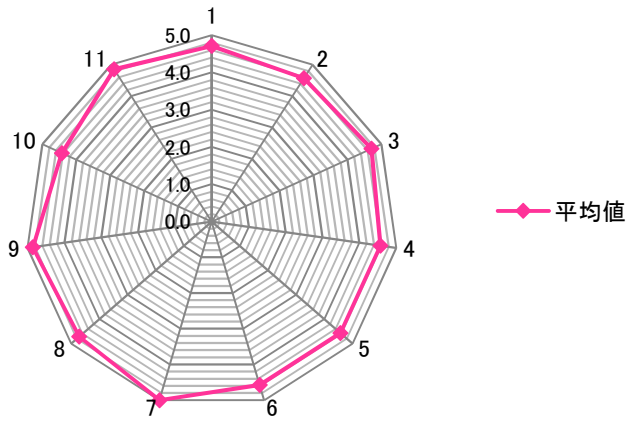
評価実施日	令和　2　年　11　月　25　日

授業科目名	特別支援教育における心理行動支援A		
授業区分	専門 科目	回答者数	7　名
担当教員名	高原光恵		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	5	2					4.7
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	3					4.6
3	授業の内容は，分かりやすかった。	5	2					4.7
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	4	3					4.6
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	4	3					4.6
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	3					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	7						5.0
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5	2					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	3	4					4.4
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	1					4.9
12								
13								



＜分　析＞

授業に対する評価は概ね肯定的であった。ただし、回答者数が実際の受講者数の3分の1以下であり、回答の偏りが生じた可能性もある。自由記述からは、立場や経験の異なる方々との意見交換が高評価であることが感じられた。今後も他者の意見を知る機会を設定したいと思う。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

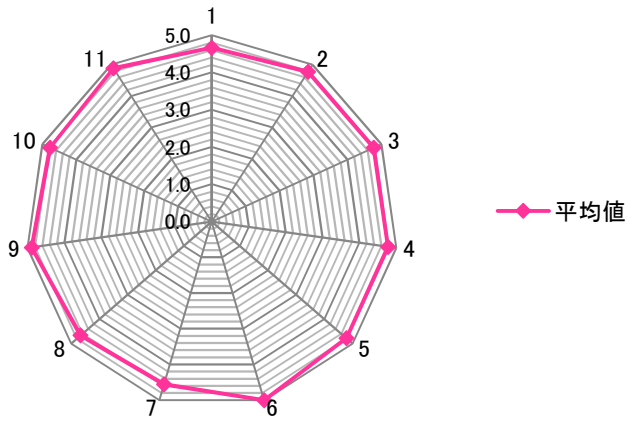
評価実施日	令和　3　年　2　月　17　日

授業科目名	特別支援教育における心理行動支援B	
授業区分	専門 科目	回答者数　9　名
担当教員名	高原光恵	

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	6	3					4.7
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	2					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	7	2					4.8
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	7	2					4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	7	2					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	5	4					4.6
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	6	3					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1					4.9
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	7	2					4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	1					4.9
12								
13								



＜分　析＞

授業に対する評価は概ね肯定的であった。ただし、回答者数が実際の受講者数の半数であり、回答の偏りが生じた可能性もある。自由記述からは、授業の実施方法や他者の発表からの学びについて大変評価が高いことが示された。今後も受講生同士の学び合いができる機会を設定したいと思う。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

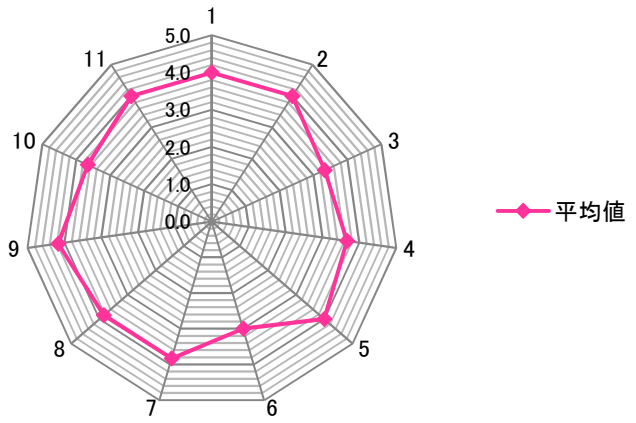
評価実施日	令和　2　年　11　月　27　日

授業科目名	特別支援教育における医療・教育の連携A	
授業区分	専門 科目	回答者数　6　名
担当教員名	伊藤弘道，井上とも子	

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	2	2	2				4.0
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	3		1			4.0
3	授業の内容は，分かりやすかった。		4	1		1		3.3
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	2	2	1		1		3.7
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	2	3		1			4.0
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	1	1	2	1	1		3.0
7	授業の進む速さは適切であった。	2	3			1		3.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	2	3			1		3.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	1				4.2
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	2	2	1		1		3.7
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	2			1		4.0
12								
13								



＜分　析＞

本授業の目的であるが、発達障害児，病弱児，肢体不自由児など特別支援教育の対象となる児について，主として医療の観点から，テーマを毎回決め，少人数のグループにて文献研究を行い，この分野の研究について理解を深め，あわせて，プレゼンテーション，討論などを実践することにより，特別支援教育の対象児に対する医療的観点からのより深い理解をすすめることである。本年度はコロナ禍の影響があり、授業中の感染予防の観点から、例年とは授業方法を大きく変更し、対話的な活動を制限した。また、本アンケート回答者は全受講者15名中6名と少数であり（例年はほぼ全員が回答。本年度は全学的にスマホを使用した回答となっている)、非回答者9名の意見は不明である。回答者6名中5名からは項目全体に渡って概ね良好な評価を得たが、1名からは厳しい評価を得ており、6名中の1名ということで、平均値に大きく影響している。尚、同様の授業方法で行った「特別支援教育における医療・教育の連携B」では全受講者11名中3名の回答で、全項目にわたり概ね4.7程度と高評価であり、いずれの授業評価とも回答者が少ないことによるデータの偏りが認められる可能性が高い。コロナ関連の感染予防と対話的な授業の両立・バランスは今後も課題であるが、今後とも授業の内容、方法について改善を行っていきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

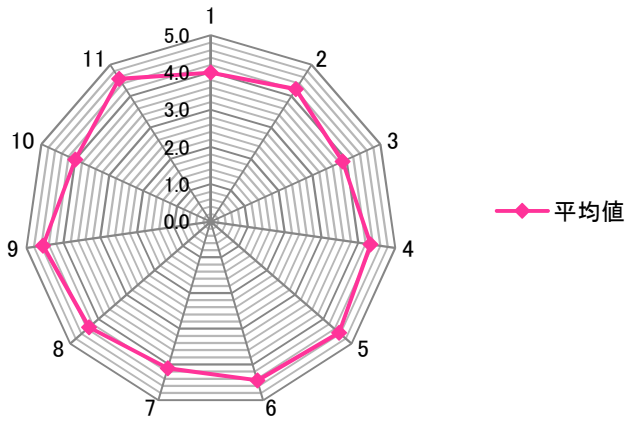
評価実施日	令和　2　年　11　月　26　日

授業科目名	特別支援教育における心理学・教育学の連携A		
授業区分	専門 科目	回答者数	9 名
担当教員名	島田恭仁		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	2	6		1			4.0
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	7					4.2
3	授業の内容は，分かりやすかった。	1	7		1			3.9
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	6	1	1	1			4.3
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	5	4					4.6
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	5					4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	3	4	2				4.1
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	3	6					4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4					4.6
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	2	6		1			4.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	4					4.6
12								
13								



＜分　析＞

11項目中3項目で4.6の高い評定値になり、全体の評定値平均は4.27という結果だった。

項目(5)では、全員が5または4の評定を行い、4.6の高い評定値であったことから、「授業の内容は教師の実践力の育成につながるものだった」と感じた学生が多かったことが分かった。コロナ禍の最中であるが、十分なディスタンスを取りつつ、検査の実施・集計・解釈と個別指導計画の立案を行う演習を主体にし、児童のアセスメントと指導に関する実践力を体験的に学習できるようにしたことが、功を奏したと思われる。

また、項目(9)(11)でも、全員が5または4の評定を行い、いずれも4.6の高い評定であったことから、「授業に主体的・積極的に取り組むことができ、もっと学びを深めたいと思うようになった」と答えた受講生が多いことが分かった。授業中に知的障害児や発達障害児の指導に役立つ検査器具を実際に取り扱う実習を取り入れたことで、特別支援教育におけるアセスメントと指導の意味・内容を分かりやすく説明できたため、受講生は主体的・積極的に取り組み、さらに学びを広げ、深めたいという意欲が持てるようになったのだと言える。

また、項目(2)(6)(8)でも、受講生全員が5または4の評定を行い、いずれも4.2以上の評定が得られたことから、「授業はシラバスの主旨に沿って適切で、アクティブ・ラーニングが実施され、資料や課題は適切だった」と感じた学生が多かったことが分かった。コロナ禍の最中で十分なアクティブ・ラーニングはできなかったが、マスク・シールドを着用してグループ内で小声で討議する機会を設けたり、個別指導計画立案のためのワークシート学習を行ったりしたことが有効だったと思われる。

以上の諸点から、本講は演習・実習的な内容を含む授業であり、授業成果を上げるためには、コロナ感染予防策を徹底しながら対面授業を継続することが望ましいと言える。従って、基本的には次年度も今年度と同様の方法を踏襲することにしたいが、コロナ禍とワクチン接種の動向に即して、時間短縮した対面授業とオンデマンド形式のリモート授業を併用する等、ハイブリッドな授業形態も取れるように工夫したい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

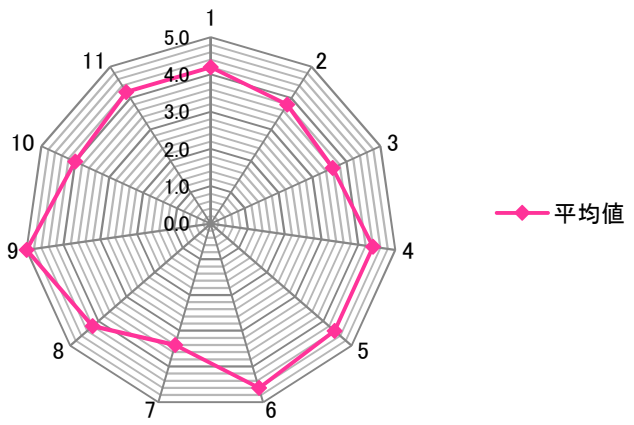
評価実施日	令和　3　年　3　月　8　日

授業科目名	特別支援教育における心理学・教育学の連携B		
授業区分	専門 科目	回答者数	5 名
担当教員名	島田恭仁，井上とも子		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	1	4					4.2
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	1	2	2				3.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。		3	2				3.6
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	2	3					4.4
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	2	3					4.4
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	2					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1	2	1			3.4
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	2	2	1				4.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	1	3	1				4.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	1	4					4.2
12								
13								



＜分　析＞

11項目中4項目で4.4以上の高い評定値になり、全体の評定値平均は4.16という結果だった。

項目(4)(5)では、全員が5または4の評定を行い、いずれも4.4の高い評定値であったことから、本講が「教師の専門性と実践力の育成につながるものだった」と感じた学生が多かったことが分かった。後期の前半に「特別支援教育における心理学・教育学の連携A」の授業を受け、心理学的なアセスメント結果を特別支援教育の指導実践につなげてゆく基礎的な素養を身に着けていた受講生が多かったため、本講で、さらに複雑な検査の実施・集計・解釈を行う演習に取り組んだことで、専門性と実践力を一層向上させることに寄与したのだろう。

項目(6)(9)でも、受講生全員が5または4の評定を行い、4.6と5.0という高い評定になったことから、「授業ではアクティブラーニングが実施され、主体的・積極的に取り組むことができた」と答えた受講生が多いことが分かった。授業中に、認知機能を測定する高度で複雑な検査器具を実際に取り扱う実習を取り入れたことで、対象児者の認知特性に合わせた指導計画を立案することの重要性について分かりやすく説明できたため、受講生はアクティブラーニングが実施されていたと感じ、主体的・積極的に取り組む意欲が喚起されたのだと言える。

また、項目(1)と(11)でも、受講生全員が5または4の評定を行い、いずれも4.2という評定結果になったことから、「シラバスの主旨、目標等は理解しやすく、この授業をきっかけに、もっと学びを深めたい」と思った受講生が多いことが分かった。オムニバス形式で内容の一貫性を持たせるのが難しい授業であるが、今年度は都合により単独開講を行ったため、比較的一貫した授業展開ができたのだと考えられる。そのため、受講生は本講の主旨・目標に沿ってさらに学びを深めたいという意欲を持つようになったのだと思われる。

以上の諸点から、本講は演習と実習を通じて高度な実践力を養うことを目指す授業であり、授業成果を上げるためには、コロナ感染予防策を徹底しながら対面授業を継続することが望ましい。従って、基本的には次年度も今年度と同様の方法を踏襲したいが、コロナ禍とワクチン接種の動向に即して、時間短縮した対面授業とオンデマンド形式のリモート授業を併用する等、ハイブリッドな授業形態も取れるように工夫したい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

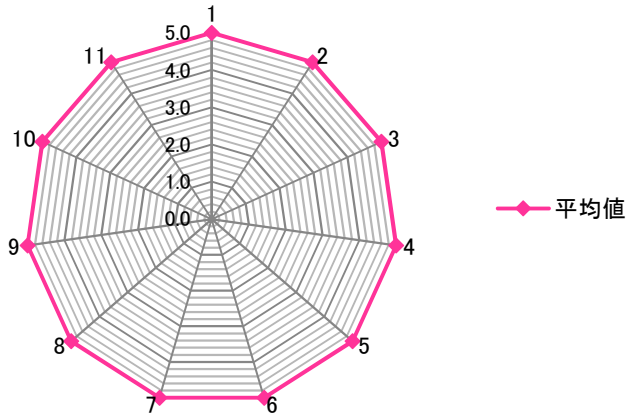
評価実施日	令和　3　年　2　月　9　日

授業科目名	地域の教育課題と教育行政の実務		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	藤井伊佐子，前田洋一，竹内敏		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



＜分　析＞

履修者26名中、回答者が4名とあまりにも少なかったことが残念である。回答者4名については、5件法の評価で11項目全てを積極的肯定の評価「5」とするなど授業評価は高い結果となった。ただ、回答していない学生の中には、「どちらともいえない」から特に回答しないとする存在も考えられることから、信頼性ある分析とは言いがたい。しかしながら、それぞれの授業やフィールドワークにTTとして担当教員が参加し、授業に臨む学生の姿勢やレポート、教育課題の解決策をまとめたポンチ絵作成・発表などについて総括した結果、シラバスに沿って教師としての専門性が高められる授業が実施できたと考える。

以下に示す学生の自由記述に鑑みて、次年度も基本的にはこのシラバスに沿った内容で進め、アクティブラーニングや授業の進度に改善を加えて実施していきたいと考える。なお、藤井が立ち上げた授業であるため、藤井が担当する授業時数を多くしていたが、学生の「竹内先生の授業ももっとうけたかったです。」の要望を受け、次年度は竹内の授業時数増で臨みたい。

●良かった点

・県庁訪問をはじめ教育委員会定例会傍聴等の体験をさせていただき、深い学びにつながりました。また、具体的な教育施策を立案する経験は今後の教員人生に生かせると思います。

・フィールドワークやポンチ絵づくり等、前向きに学習できる工夫がされていた点。

・実際に県庁訪問をして学ぶなど，色々な人とのかかわりを通して，自分とは違う視点に気付き，とてもありがたい機会でした。とても学びが多かった授業です。

・県庁の訪問や、教育行政がどのように行われているかなど、実際の経験をもとにご講義いただけたので、実感を伴って理解することができました。

●改善点・望む事柄，アイデア

・竹内先生の授業ももっとうけたかったです。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

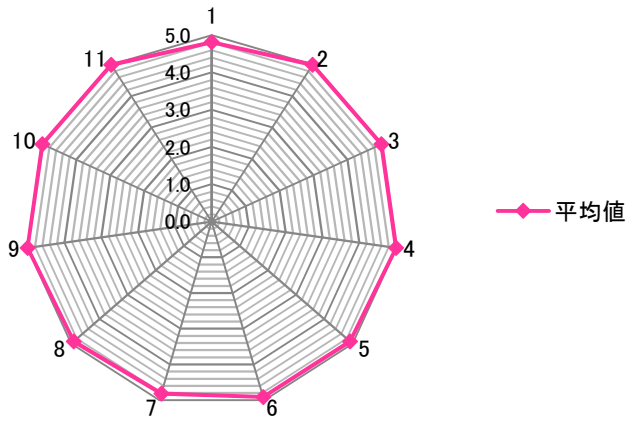
評価実施日	令和　2　年　11　月　27　日

授業科目名	学校防災教育の開発		
授業区分	専門 科目	回答者数	11 名
担当教員名	阪根健二		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	9	2					4.8
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	11						5.0
3	授業の内容は，分かりやすかった。	11						5.0
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	11						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	10	1					4.9
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	10	1					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	9	2					4.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	10	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	11						5.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	11						5.0
12								
13								



＜分　析＞

極めて高い評価であった。その理由として、事例を多く取り上げたこと、また、グループで防災マニュアルを検討し合ったことながあり、防災教育の重要性を身をもって感じることができたようである。また、学校の実態に応じた対策をするために、学校として、一教員として何を取り組むべきかという視点で、必要なことを多く取り上げたことが実りの多い学びにつながったように思われる。また、愛媛大学との遠隔も慣れてきたことで、大きな問題はなかったように思われる。コロナ対策のため、フェイスシールドを配布して演習を行ったり、遠隔地の院生は遠隔で班活動に入りなどの工夫も今後につながるものと思われる。ただ、進行速度がやや早かったことで、未消化の部分もあったように思われる。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

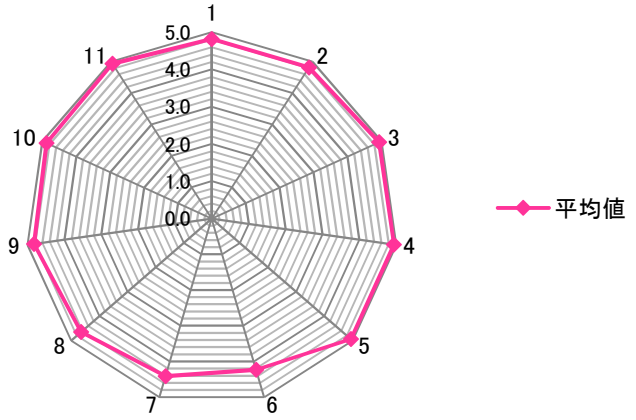
評価実施日	令和　2　年　7　月　18　日

授業科目名	学校におけるカリキュラムマネジメントの推進		
授業区分	専門 科目	回答者数	17 名
担当教員名	村川雅弘		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	14	3					4.8
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	14	3					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	16	1					4.9
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	16	1					4.9
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	16	1					4.9
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	8	6	2	1			4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	9	6	2				4.4
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	11	6					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	3					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	15	2					4.9
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	16	1					4.9
12								
13								



＜分　析＞

全体的に高い評価を得ている。「村川先生のお話がわかりやすく、テンポも良かったので、時間が過ぎるのが早かったです。カリキュラムマネジメントについて、各教科や校務分掌ごとにまとめるてそれを並べてみるのか等考えていましたが、カリキュラムモデルによって学校全体や学級等を俯瞰して分析できることを学びました。」「実際の中学校の取組事例を調べたり、自校のカリキュラムマネジメントモデルをつくる作業を通して、学校カリキュラムマネジメントの進め方や様々な取組を知ることができ、自分自身の成長に繋がったと感じている。また、とても主体的な学びであったと感じている。」など、具体的な事例を多く取り上げると共に、現職には自校及び学卒には自己の取組を分析させたことは有効であった。講義の内容や方法に関しては概ね今後も踏襲していけばよいと考える。項目6「授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。」が4.2と少し低いのは、新型コロナの感染対策を鑑み、協議の時間を十分に確保できなかったことが考えられる。また、項目7「授業の進む速さは適切であった。」に関しては、小中校の現職教員に加えて、学卒院生が受講しており、関連の事例を多様に取り入れることにより、どうしても足早になることが要因と考えられる。「京都との中継が行われていましたが、著しく授業の進行を妨げていたように思えます。今後こういったことはやめていただきたいです。」「映像システムが止まってしまったので，バックアップ装置があるとよいと思います。」など、京都教育大学との通信トラブルに関するクレームは若干数見られた。次年度の改善が求められる。また、「本講義を、後期の集中講義「ワークショップ型研修の技法」と合わせて受講するとよいと伺いました。シラバスにその旨を記載していただけると、より多くの人が両方の講義を受けられ、学びを深められるのではないかと思います。」ワークショップ型研修を履修してなかったのですが、受講することに致します。」というコメントもあった。全くその通りで「ワークショップ型研修」と「カリキュラム・マネジメント」は授業改善・学校改革における車の両輪である。記載の必要性を感じた。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

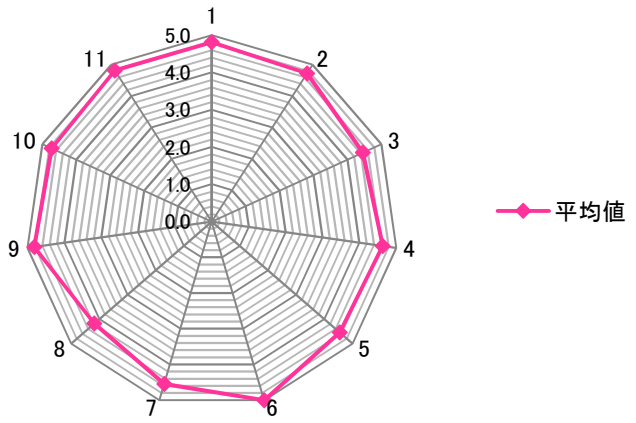
評価実施日	令和　2　年　11　月　20　日

授業科目名	家庭・地域・学校の連携構築		
授業区分	専門 科目	回答者数	11 名
担当教員名	大林正史		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	9	2					4.8
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	3					4.7
3	授業の内容は，分かりやすかった。	6	4	1				4.5
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	7	4					4.6
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	7	3	1				4.5
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	11						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	6	5					4.5
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	5	3	3				4.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	8	3					4.7
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	2					4.8
12								
13								



＜分　析＞

各項目の平均値は4.2～5.0であり、授業の目的はある程度達成されたと考える。

本授業では、事前に、私自身が読んで面白かった各授業のテーマに関する文献を読んでもらい、ミニレポートを事前に書いてもらっている。授業では、院生は、ミニレポートをもとに、小グループで、簡単なディスカッションを行い、発表している。その後、私がテーマについて、発表を踏まえて解説を行い、最後に院生は、コメントカードに、授業についての質問や意見を書いている。そして、翌週の最初に、コメントカードについて、私が言及するという流れで授業を行っている。

上記の学習過程により、現職院生は、自身の経験と、他者の経験、文献の記述内容を自分なりに結びつけて認識するようになったことがうかがえた。その上で、本授業の最後に、院生は、それまでの学習を踏まえ、置籍校の地域連携の改善プランを立案し、発表することを通して、学術上の理論と、各院生の今後の実践を結びつけて認識するようになっていたように思われる。

これらのことは、本授業の意図するところである。アンケート結果から、この過程での学習による教育効果は、少なくないことがわかる。そのため、次年度も、この基本的な学習過程を踏襲したいと考えている。

しかし、授業評価アンケートのデータから、院生に読んでいただく文献や、ミニレポートの内容に、課題があることがわかる。したがって、次年度は、院生に読んでいただく文献や、ミニレポートの内容の一部を修正することを考えている。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

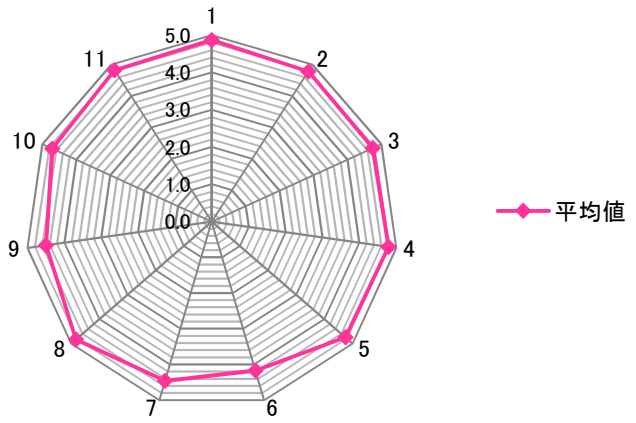
評価実施日	令和　3　年　2　月　12　日

授業科目名	学校ビジョンの構築と教職員の組織化		
授業区分	専門 科目	回答者数	24 名
担当教員名	久我直人		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	22	1	1				4.9
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	19	5					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	18	6					4.8
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	19	5					4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	18	6					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	11	6	7				4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	14	8	1	1			4.5
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	20	4					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	7	1	1			4.5
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	17	7					4.7
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	20	4					4.8
12								
13								



＜分　析＞

全ての項目で高い評価を得ることができた（11項目中7項目が4．8以上であった）。
その理由として，学校組織マネジメントにかかる実践事例を多く取り上げると共に，事例に内包される教育理論を可視化し，組織化しにくい学校の組織化のメカニズムを理論的に組み上げる思考を促したことが，受講者の理解と納得につながったと考える。
さらに，学校ビジョンの形成等，具体的なマネジメントの手続きについて、事例を用いて講義することで受講者の学びにつながったと考える。
また、今日的な課題である働き方改革のあり方と学校組織マネジメントの関係を構造的に講義したことも受講者の理解を深めることに繋がったと捉える。
一方，授業方法において，事例に対する受講者の質問に答える等，応答的なやりとりの中で授業を展開したが、さらに、具体的な作業課題を設定したグループワーク等を通して，院生同士の交流の場を多く設定することを次年度への課題とする。
今後，授業展開にかかる時間配分等について再検討し，次年度の授業設計に生かしたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

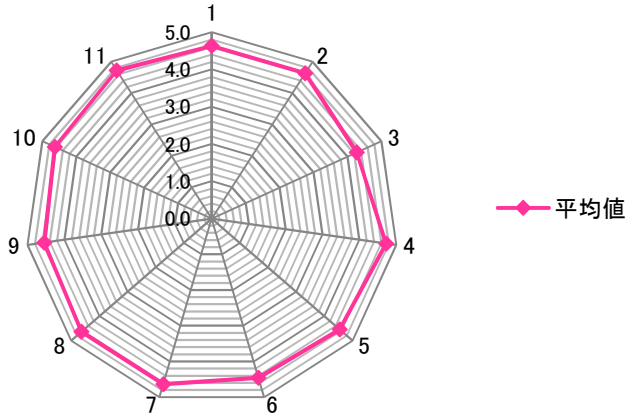
評価実施日	令和　2　年　8　月　18　日

授業科目名	教職員の人材育成と校内研修		
授業区分	専門 科目	回答者数	11 名
担当教員名	芝山明義		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	7	4					4.6
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	4					4.6
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4	6	1				4.3
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	8	3					4.7
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	6	5					4.5
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	6					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	7	4					4.6
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	7	4					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5					4.5
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	7	4					4.6
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	3					4.7
12								
13								



＜分　析＞

まず，本（2020（令和2））年度より本学の授業評価アンケートの実施方法がオンライン形式に変更されたこともあり，本授業へのアンケートの回答者は履修生17名中11名である。回答者に関して，全体として各項目の平均値は4.3～4.7の範囲にあり，11項目の全項目で平均値4.0以上の比較的高い評価を得ることができた。

授業の内容については，主として「講義」では教職員の人材育成と教員の専門性及びその教員研修との関連の考察，校内研修の計画と運営の前提としての校内研修の意義や今日的課題の検討と理解を，さらにそれらをもとに主として「演習」（グループ討議等）では教職員の必要性に対応しかつ有効な校内研修のあり方の提案，各現職院生の現任校園等を事例とした現状の検討を，受講生に求めた。授業の手続については，アクティブラーニングを考慮した授業展開を工夫し，「演習」とともに「講義」でも質疑を導入した授業の構成・進め方をめざした。

これらの内容と手続から，全体をとおして受講生には従来の校内研修の捉え直しを促し，さらに現職院生には現職経験（現任校園等の種別，教職経験年数や担当・専門教科，勤務してきた学校園等の特性や担当した校務分掌等のキャリア等）の振り返り等によって，人材育成の必要性と課題の理解や校内研修の可能性・展望の考察につながったと考えられる。

また，本授業の受講生には現職院生とともに学卒院生もいること，現職院生についても現職経験の差異等により個別の課題意識が多様であること等から，これらに関連する課題として，「講義」の内容とりわけ理論的検討とその実践との関連について，各受講生の理解の水準や範囲，実践との関連づけの必要性や期待等に配慮したことである程度，個別の対応が果たせたと考えられる。

ただし，「講義」の展開・進め方において，配付資料の使い方やプレゼンテーションの工夫，講話時の配慮や講義室の設備不良等への対応が行き届かなかったこと等へのコメントにたいしては，さらなる改善や点検等の対応を要する。なお，本年度はCOVID-19への対応のために前期後半の本授業も開講が遅れ，最終回が盆過ぎになる等の日程の変更やグループ討議では「三密」回避のために講義室を変更する等の配慮によって生じた時間配分・構成等の諸課題は，今後の同様の事態にそなえるためにも丁寧に検討し，適切な対応を工夫したい。

以上の検討をふまえて，実践力の育成によりつながるように，受講生にとって十分に理解しやすく満足感の得られる授業の内容や展開をきめ細かく検討して対応を考えるとともに，オンラインによる授業を実施せざるを得ない場合も想定して，プレゼンテーション等の授業方法や資料の構成・活用等についてもさらに改善・工夫に努めたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

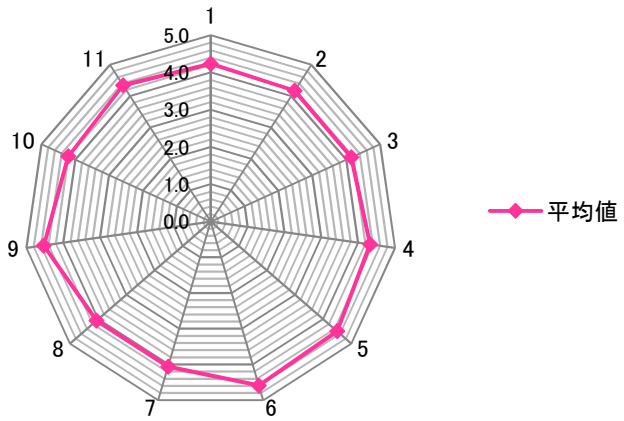
評価実施日	令和　3　年　2　月　18　日

授業科目名	子ども理解と支援		
授業区分	専門 科目	回答者数	34 名
担当教員名	末内佳代，池田誠喜		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	17	12	3		2		4.2
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	18	10	3		3		4.2
3	授業の内容は，分かりやすかった。	20	7	2	2	3		4.1
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	20	9	2	2	1		4.3
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	24	7		2	1		4.5
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	27	4		2	1		4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	17	9	4	1	3		4.1
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	14	14	2	2	2		4.1
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	25	5	2	1	1		4.5
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	16	14	1	1	2		4.2
11		21	9	1	1	2		4.4
12								
13								



＜分　析＞

質問項目10項目全ての平均値は4.1以上であり,受講生の授業評価は概ね肯定的であると考えられる。特に授業のねらいとしている実践力の育成,アクティブ・ラーニング,主体的・積極的な取組の項目は4・5以上であり,目標は達せられた。
自由記述には,「現職が,今までの行事を見つめ直し,学卒院生に学校現場を教える良い機会が得られた」。「特別活動や学校行事等について,改めて考える機会となった。今まで気づかなかった視点について知り,具体策まで考えられたことはよかった。現場に戻った時に活かしたいと思うことがたくさんあった」。「チームを組んで行事を作り上げていく学習は，様々な年齢や立場の方々と多様な見方考え方で考察することができとても有意義な議論となりました。冊子の作成や課題へのコメント等,ありがとうございました」など授業者が期待していた意見があり,大変うれしく思った。一方でコロナ対応に関しては,教室,フェイスシールド,オンラインの活用等様々な意見があった。真摯に受け止め,次の授業者に授業改善を引き継ぎたいと思う。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

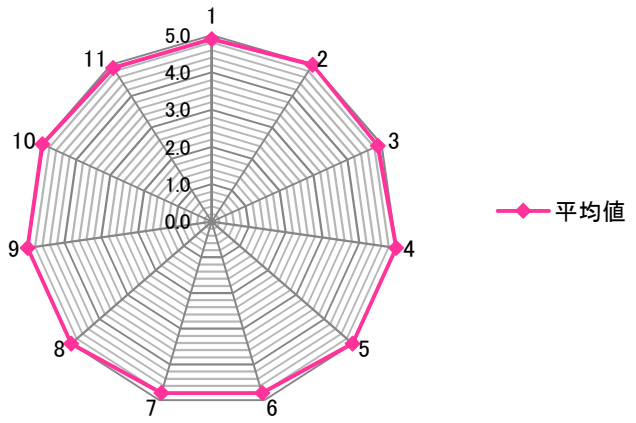
評価実施日	令和　3　年　2　月　12　日

授業科目名	いじめ・不登校等事例検討		
授業区分	専門 科目	回答者数	10 名
担当教員名	小坂浩嗣，阿形恒秀，末内佳代，池田誠喜		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	9	1					4.9
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	10						5.0
3	授業の内容は，分かりやすかった。	9	1					4.9
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	10						5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	10						5.0
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9		1				4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	8	2					4.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	10						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	10						5.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	1					4.9
12								
13								



＜分　析＞

回答率は，45％であった。回答を求めた11項目全体の平均は4.9であった。カテゴリー別では，＜シラバスの内容について＞1項目は4.9，＜授業内容について＞4項目は4.9，＜教員の授業の進め方について＞3項目は4.8，＜授業に対する満足度・意義について＞3項目は4.9であった。すべての分析項目において4.8以上の結果を得たことから，総合的に非常に高い評価を得たと考えられる。

項目別では全11項目に4.8以上の高い評価を得た。その理由としては，授業や事例検討の意義を解説したこと，事例検討のデモンストレーションがモデルになったことが挙げられる。また、受講生同士のラポール形成のもとで，院生自身が真摯に事例に臨んだこと，受講者のグループ編成について校種を混合させたことにより，多様な事例に触れ検討できたことが挙げられる。課題としては，学卒院生が発言しやすい検討会の設定、学卒院生に対する検討会でのコメントや解説に工夫する改善の余地があろう。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

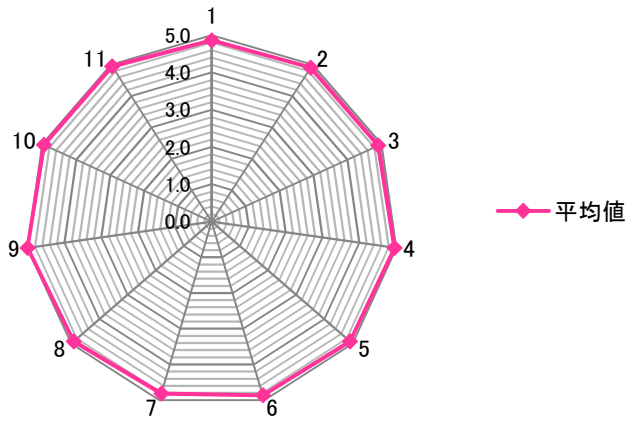
評価実施日	令和　3　年　2　月　12　日

授業科目名	集団づくりとグループアプローチ		
授業区分	専門 科目	回答者数	22 名
担当教員名	小坂浩嗣，阿形恒秀		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	19	3					4.9
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	20	2					4.9
3	授業の内容は，分かりやすかった。	20	2					4.9
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	21	1					5.0
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	20	2					4.9
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	19	3					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	18	4					4.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	20	2					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	22						5.0
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	21	1					5.0
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	21	1					5.0
12								
13								



＜分　析＞

回答率は，81％であった。回答を求めた11項目全体の平均は4.9であった。カテゴリー別では，＜シラバスの内容＞1項目は4.9，＜授業の内容＞4項目は4.9，＜教員の授業の進め方＞3項目は4.9，＜授業に対する満足・意義について＞3項目は5.0であった。以上の結果から，授業全体について総合的に非常に高い評価を得たと考えられる。

項目別では＜4．授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。＞＜授業に対する満足・意義について＞の3項目に5.0の評価があったことから，受講生が授業に対して関心高く積極的に臨み，学習成果を上げたことが確認できた。この要因は，本授業が受講生を主体にした演習形態であったこと，学級指導や集団づくりなどに役立つ具体的内容であったこと，と考える。特に，授業に対する意義に高い評価を得たことからも，受講生および学校現場のニーズに合致していたものと考える。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

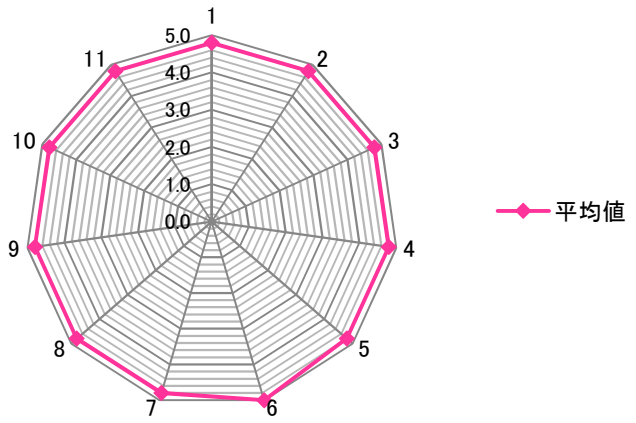
評価実施日	令和　2　年　11　月　27　日

授業科目名	道徳教育の理論と実践		
授業区分	専門 科目	回答者数	5　名
担当教員名	金野誠志，谷村千絵		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	4	1					4.8
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	1					4.8
3	授業の内容は，分かりやすかった。	4	1					4.8
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	4	1					4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	4	1					4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1					4.8
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	4	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	4	1					4.8
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8
12								
13								



＜分　析＞

ほぼ全員が全項目に5をつけており、平均しても各項目4．8と非常に満足度が高かったことがうかがわれる。ペアワークやワークショップ形式の演習が、好評であった。今後も積極的に取り入れていきたい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

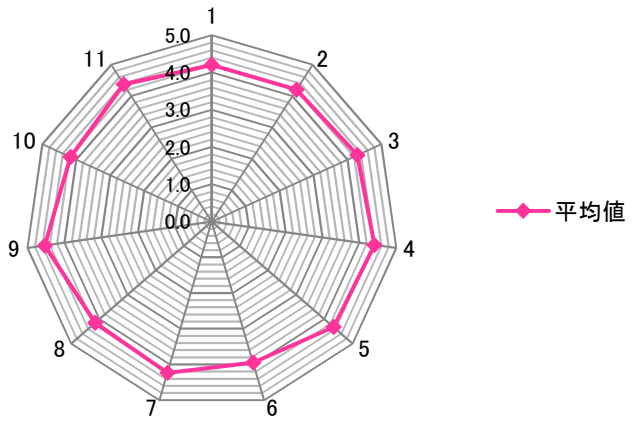
評価実施日	令和　2　年　8　月　19　日

授業科目名	学校教育におけるICT活用と情報デザイン		
授業区分	専門 科目	回答者数	34 名
担当教員名	藤原伸彦，泰山裕		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	16	13	3		2		4.2
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	17	12	2	1	2		4.2
3	授業の内容は，分かりやすかった。	19	10	2	2	1		4.3
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	25	3	2	3	1		4.4
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	22	5	5		2		4.3
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	13	10	8	2	1		3.9
7	授業の進む速さは適切であった。	19	9	3	1	2		4.2
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	17	10	3	3	1		4.1
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	22	9	2	1			4.5
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	20	7	2	3	2		4.2
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	22	6	4	1	1		4.4
12								
13								



＜分　析＞

評定平均値が，項目6で3.9であったものを除きいずれも4以上と高く，概ね良い評価が得られたと考えられる。

例年おもうことだが，8回の授業の中で学生のニーズに合わせて話を充実させるのは非常に難しく感じる。プログラミング教育に関しては，話もしたいし，演習について十分な時間をとりたいし，プログラムの作り方についてのアドバイスなどもしたいところではあったが，時間の制約で難しかった。また，授業での活用についての話を聞きたかったという希望もあった。それらを全て十分に網羅することはできないものの，受講生のニーズに合わせて工夫したい。

次年度は，GIGAスクール構想が動き始めた現在，授業における活用についても重点をおいて話をしたり演習を取り入れたりという形で変更していく予定ある。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

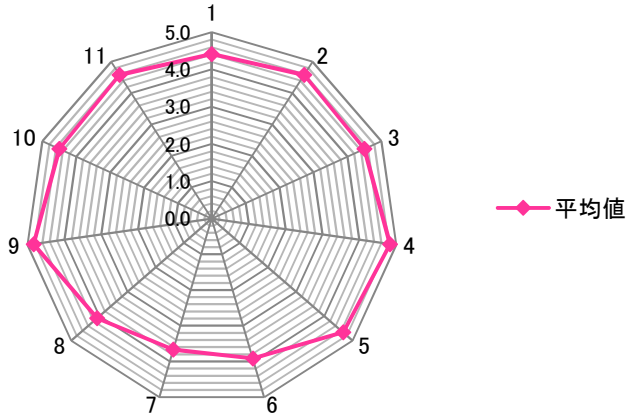
評価実施日	令和　2　年　10　月　24　日

授業科目名	総合的な学習の時間のカリキュラム開発		
授業区分	専門 科目	回答者数	12 名
担当教員名	村川雅弘		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	7	4		1			4.4
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	3	1				4.6
3	授業の内容は，分かりやすかった。	7	4	1				4.5
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	10	2					4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	8	4					4.7
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	7	1		1		3.9
7	授業の進む速さは適切であった。	5	3	1	1	2		3.7
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	6	3	1	2			4.1
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	2					4.8
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	7	4	1				4.5
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	3	1				4.6
12								
13								



＜分　析＞

項目2，項目3，項目4，項目5、項目9、項目10、項目11などは平均が4.5を越えており、比較的高い満足度である。特に、項目4「授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。」及び項目10「自分にとって，満足感を得られた授業であった。」、項目5「授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。」、項目11「この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。」が高いことは重要である。「総合的な学習の時間の優れた実践について紹介していただき、イメージを持つことができた。テキストの実践を行った方からズームを用いて実際の話を伺うことができたのは、大変貴重な機会であった。」「たくさんの事例を学ぶことができて、新しい発見がありました。今日の学びをもとにまた置籍校の総合の時間を改善していきたいです。」といった意欲を引き出すことに繋がっている。また、「県外で総合的な学習の時間を熱心に実践されている方の話をzoom上で聞く機会を作って下さったり、県外の事例をたくさん紹介して下さったりして、総合的な学習の時間への理解が深まった。」とあるように、Zoomを活用して県外の実践者の事例発表を取り入れたことに対する満足度は高い。次年度も踏襲したい。一方、「高等学校の実践事例がもう少しあるとありがたいと思いました。できれば、進学校での実践と進路多様校での実践とがあると大変勉強になります。」「テキストの中に高等学校の事例も入れていてほしいです。」とのニーズもあった。指導にかかわっている文科省の研究指定校が複数校ある。次年度は高等学校の事例を増やしたい。「課題の内容について（同僚への手紙または研究レポート）見通しを持つことができず、なかなか手をつけることができなかった。もう少しイメージしやすい課題を出していただきたいです。」というコメントもあったが、学んだことを置籍校に還元するという課題を通して深く理解することをねらいとしているので、趣旨を説明した上で次年度も続けたい。項目7「授業の進む速さは適切であった。」に関しては、小中校の事例を多く取り入れようとしたためにタイトになったと反省をしている。項目6「授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。」に関しては、新型コロナ感染予防の観点から、アクティブラーニングに機会を減らさざるを得なかった。次年度は実施できることを祈念する。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

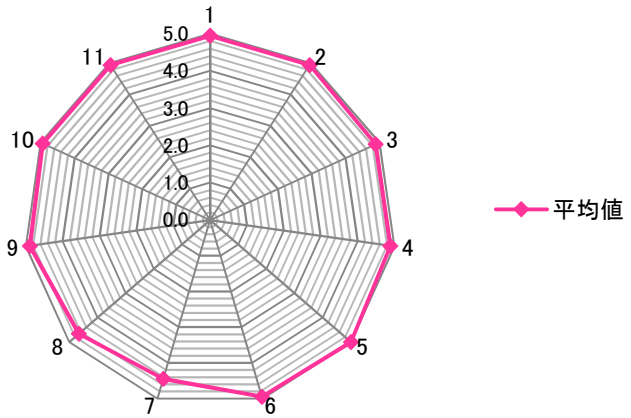
評価実施日	令和　2　年　10　月　11　日

授業科目名	ワークショップ型研修の技法		
授業区分	専門 科目	回答者数	18 名
担当教員名	村川雅弘		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	17	1					4.9
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	17	1					4.9
3	授業の内容は，分かりやすかった。	16	2					4.9
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	16	2					4.9
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	18						5.0
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	17	1					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	11	4	3				4.4
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	12	6					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	2					4.9
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	17	1					4.9
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	17	1					4.9
12								
13								



＜分　析＞

11項目中9項目の平均が4.9を超えており、全体的に高い評価を得ている。「いろいろな情報を得られた。また、具体的に学校で使える形になった。」「実際にワークショップ研修を体験できたことと、グループワークがあったことで学びを広げられ、深められた点が良かったです。また、実際に子どもワークショップを考える課題が、集中講義で学んで終わるのではなく、実際の教育実践に学びを自分がどう生かすかを考える機会となり、現場でのワークショップへの取り組みにつながっていく点も良いと思います。」「ワークショップの手法をたくさん知ることができたし、学校で生かせるような学びとなった。校種にわかれてグループ活動ができたのも現状の共有等もでき有益だった。」など、具体的な研修事例を紹介するだけだなく、学んだことを生かして実際にワークショップを行ったことは有効であった。また、「Z研のみなさまにも貴重なご意見をいただけることができて、多くの事を学ぶことができた。遠隔を利用した新たな学びの方法の示唆を得ることができた。」「Z研の方々の話を聞けたことも良かった。」とあるように、Zoomを活用してGIGAスクール構想の文科省の担当者の講話を聞いたり、ワークショップを通して開発した研修プランをZoomを通して全国の教員や指導主事に発表し、コメントをもらったことも有効であった。次年度もオンラインを上手く活用したい。ただし、項目7「授業の進む速さは適切であった。」に関しては、多様な校種や問題意識に対応しようとして、多くの事例の紹介により、全体的にテンポが速かったと考える。少しゆとりを持って臨むことが必要である。「集中講義の日程を連続日でなく、講義二日目を一週間後ぐらいにして欲しい。グループで取り組む課題がさらに深まる気がする。」とのコメントも複数見られた。次年度はそのように改善したい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

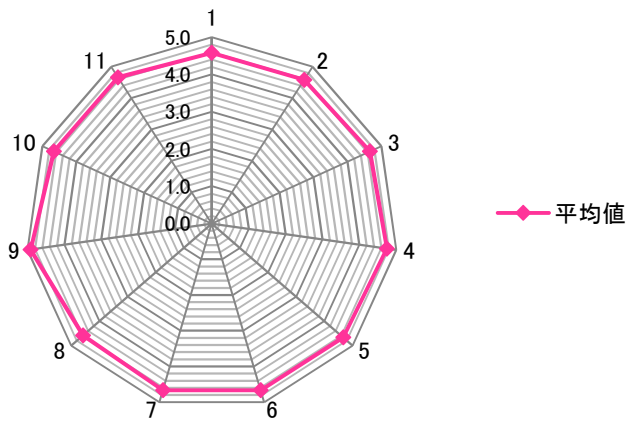
評価実施日	令和　3　年　2　月　3　日

授業科目名	生徒指導実践演習B		
授業区分	専門 科目	回答者数	12 名
担当教員名	葛上秀文，小坂浩嗣，池田誠喜		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	7	5					4.6
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	3	1				4.6
3	授業の内容は，分かりやすかった。	8	4					4.7
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	9	3					4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	8	4					4.7
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	8	4					4.7
7	授業の進む速さは適切であった。	8	4					4.7
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	8	3	1				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	1					4.9
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	8	4					4.7
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	4					4.7
12								
13								



＜分　析＞

授業全体として、一定の評価を得られ、受講者にとって意味のある授業であったと考える。特に、授業に主体的・積極的に取り組んだという項目で、12名中11名が最も肯定的な解答がされており、アクティブな授業であったと考える。学生が事例を発表し、それを学生同士が協議する形としたことが主体性を高めたが、一方で、教員からのアドバイスを求めているところもあるので、次年度に向けて進め方を改善したい。

大学院（専門職学位課程）授業評価アンケート調査結果の集計・分析

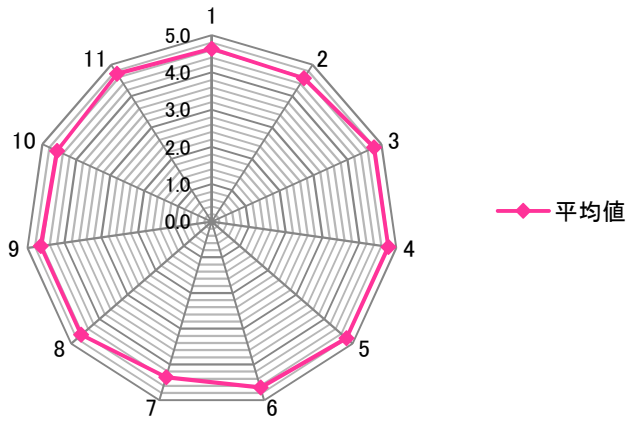
評価実施日	令和　3　年　2　月　12　日

授業科目名	学級経営実践演習B		
授業区分	専門 科目	回答者数	14 名
担当教員名	江川克弘，金森美枝		

○集計結果及び分析

（5:そう思う，　4:ややそう思う，　3:どちらともいえない，　2:あまりそう思わない，　1:そう思わない，　無:未記入）

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨，到達目標，授業計画，成績評価等は理解しやすかった。	10	3	1				4.6
2	授業の内容は，シラバスの主旨に沿って適切であった。	9	4	1				4.6
3	授業の内容は，分かりやすかった。	12	1	1				4.8
4	授業の内容は，教師の専門性を高められるものであった。	12	1	1				4.8
5	授業の内容は，実践力の育成につながるものであった。	12	1	1				4.8
6	授業では，シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	10	3	1				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	10	1	1	2			4.4
8	授業で示された資料，課題，レポートは適切であった。	10	3	1				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	2		1			4.6
10	自分にとって，満足感を得られた授業であった。	11	1	1	1			4.6
11	この授業をきっかけに，もっと学びを広げたり深めたりしたい。	12	1		1			4.7
12								
13								



＜分　析＞

成果①本授業では、グループワークやディスカッションを中心とした。アンケートの良かった点として、「いろんな人と話し合う機会があり、考えを深めることができた」「校種の違う人からの話を聞けて、つながりも大事だと思った」という意見があった。実習生同士の相互作用が、学びのプロセスを深めたといえる。また、教員のアドバイスをきっかけとして、目指す学級像についてより深く考えようとしている姿がみられたことが大きな成果であるといえる。

②実習でみてきた児童・生徒の姿を念頭に、学級経営を考えることができた。実習以前には気付いていなかった、実態把握の重要性について理解し、多面的な見方や支援の在り方など、児童・生徒理解についての専門性を高めることができたといえる。

課題①アンケート番号7にあるように、授業の進む速さ、時間配分に課題があったといえる。振り返りを記述する時間やグループディスカッション、発表の時間が明らかに足りなかった。十分に活動する時間を確保するためには、事前学習・事後学習として、それぞれの意見をレポートにまとめさせる等の工夫・改善が必要であったといえる。

②本年度は14名の院生と2名の教員で、主に2つのグループに分かれて話合い等を行った。1グループの院生の人数は7名であった。議論は活発に行われていたが、時間内に発言の機会を得らなかった院生もいた。1グループ4，5名とし、テーマに対し、全員が意見を述べながら話合いを進めることが、主体性、積極性の向上につながっていくと考えられる。そのためには同時に教員数を増やす必要もある。

③省察による気付きを深めるためには、実習生の経験や考えに対し、さらに気付きを深める教員の質問や投げかけが重要である。「なぜそのように行うのか」「それはどういうことにつながっていくのか」「それだけで十分か」などの視点を投げかけることで、学生は再度考え始め、思考を深めていこうとする。教員として学生が成長し続ける力を獲得できるような働きかけを行っていきたい。